

《人づくり分野》

生涯学習部

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	他 自 治 体 の 取 組 み 等	◆2023年度、東京都内において考古資料等のデジタル公開を行っているのは、多摩26市で7市、23区で10区です。また、横浜市、川崎市も同様に公開しています。
所管事務	◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関する事 ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関する事 ◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関する事 ◆文化財の保護、調査及び収集等に関する事 ◆考古資料室に関する事		

2.22年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「(仮称)町田市教育プラン24-28」の策定に向けて、生涯学習審議会の意見を踏まえ、生涯学習に関する施策や重点事業を検討する必要があります。
 ◆リニューアルした考古資料室の常設展示をより多くの方に見てもらうためのPRが必要です。◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業については、より効果的に学校側のニーズに応えられるよう内容の検討が必要です。◆施設の老朽化への対応だけでなく、収蔵資料の更なる活用を見据え、考古資料室の修繕・改修等を講じる必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆生涯学習審議会の意見を踏まえ「(仮称)町田市教育プラン24-28」の策定に向けた検討を実施します。◆考古資料室展示リニューアル後の情報発信を積極的に行います。◆出張歴史授業は、学校のニーズやアンケート等により内容の検討、更新を行います。		◆「(仮称)町田市教育プラン24-28」に基づき、生涯学習に関する事業を推進します。◆考古資料室見学者の利便性と資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕を検討、実施します。	
取組状況	○ ◆「町田市教育プラン24-28」を策定しました。◆バイオエネルギーセンターのイベント等にあわせて、学芸員の展示解説や収蔵庫見学を伴う特別開室を実施しました。◆小中学校向け出張歴史授業の内容を学校のニーズに沿った内容に見直すため、教員やボランティアコーディネーターへのヒアリングを実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	-	目標	-	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	5	3	3			
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡公開	見学会実施	牢場遺跡整備	八幡平遺跡整備	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牢場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡公開	全面公開	牢場遺跡整備		(2024年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	330	360	650	650	-	考古資料室年間見学者数
		実績	323	621	686			

②成果指標およびその他成果の説明

◆町田市生涯学習審議会からの意見等を踏まえ、2024年3月の教育委員会において「町田市教育プラン24-28」を策定しました。◆生涯学習施策をより効果的に推進するため、社会教育委員の職務を生涯学習審議会に統合し、社会教育及び生涯学習に係る第三者機関を一元化しました。◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、牢場遺跡内の土地の整備工事を実施・完了し、2024年2月から公開を開始しました。ホームページに整備状況を公開したほか、工事完了後に高ヶ坂遺跡見学会(まち歴史講座第10回「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」)を実施し、周知を図りました。◆2023年2月に行った展示リニューアルのPRや、特別開室を実施したことにより、考古資料室の見学者数は2022年度の621人を65人上回る686人となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
人件費	97,328	85,103	87,263	2,160	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	663	805	416	△ 389	保険料	0	0	0	0
物件費	24,884	49,407	14,738	△ 34,669	国庫支出金	1,700	7,537	8,932	1,395
うち委託料	24,148	47,909	13,461	△ 34,448	都支出金	949	870	5,109	4,239
維持補修費	538	486	20,263	19,777	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	484	472	478	6
補助費等	1,180	1,174	24,988	23,814	その他	3,102	122	172	50
減価償却費	7,329	7,329	7,338	9	行政収入 小計(a)	6,235	9,001	14,691	5,690
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 140,934	△ 142,387	△ 153,677	△ 11,290
賞与・退職手当引当金繰入額	15,910	7,889	13,778	5,889	金融収支差額(d)	△ 181	△ 165	△ 149	16
行政費用 小計(b)	147,169	151,388	168,368	16,980	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 141,115	△ 142,552	△ 153,826	△ 11,274
特別費用(g)	2,525	0	0	0	特別収入(f)	0	6,207	0	△ 6,207
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 2,525	6,207	0	△ 6,207	当期収支差額(e)+(h)	△ 143,640	△ 136,345	△ 153,826	△ 17,481

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 85,215千円 文化財保護審議会委員報酬 1,032千円 社会教育委員報酬 648千円 生涯学習審議会委員報酬 368千円	埋蔵文化財調査委託 3,613千円 村野常右衛門生家管理及び清掃業務委託 1,397千円 旧永井家住宅・旧荻野家住宅保守管理業務委託 1,084千円 高ヶ坂石器時代遺跡緑地管理業務委託 839千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、2,160千円増加(うち、時間外は389千円減少)。	中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校から新たな場所への文化財等の移転が終了したことにより、運搬整理及び廃棄物処分に係る委託料が29,124千円減少。
勘定科目	維持補修費	補助費等
決算額の主な内訳	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(六期) 13,472千円 考古資料室屋上他改修工事 4,173千円 都指定史跡小山田1号遺跡西側階段復旧修繕 1,246千円 都指定史跡小山田1号遺跡壁面復旧修繕 691千円 など	町田市文化財保護事業費補助金 23,959千円 町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 326千円 高ヶ坂石器時代遺跡整備検討委員会委員謝礼 89千円 など
主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備に係る工事費が13,472千円増加。考古資料室屋上他改修工事の実施により4,173千円増加。文化財の修繕箇所が増加により修繕料が2,034千円増加。	民有文化財の修繕に対し補助金を交付したことにより、町田市文化財保護事業費補助金が23,542千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		13,602	14,227	625			
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0			
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		5,713	5,728	15			
事業用資産	有形固定資産		827,845	831,036	3,191	賞与引当金		7,889	8,499	610			
	土地		708,422	708,422	0	その他の流動負債		0	0	0			
	建物(取得価額)		333,632	343,690	10,058	固定負債		116,120	110,739	△ 5,381			
	建物減価償却累計額		△ 214,209	△ 221,076	△ 6,867	地方債		36,296	30,568	△ 5,728			
	工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金		79,824	80,171	347			
	工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0			
	無形固定資産		89	80	△ 9	負債の部合計		129,722	124,966	△ 4,756			
	有形固定資産		0	0	0	純資産		700,474	707,950	7,476			
	土地		0	0	0								
	工作物(取得価額)		0	0	0								
インフラ資産	工作物減価償却累計額		0	0	0								
	無形固定資産		0	0	0								
	建設仮勘定		0	0	0								
	その他の固定資産		2,262	1,800	△ 462	純資産の部合計		700,474	707,950	7,476			
	資産の部合計		830,196	832,916	2,720	負債及び純資産の部合計		830,196	832,916	2,720			

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)覆屋 27,293千円 など	商標権(まっくう) 80千円	須恵器横瓶 1,800千円
主な増減理由	減価償却により、6,867千円減少。考古資料室空調設備改修工事の実施により、10,058千円増加。	減価償却により、9千円減少。	土製耳飾りレプリカの減価償却により、462千円減少。

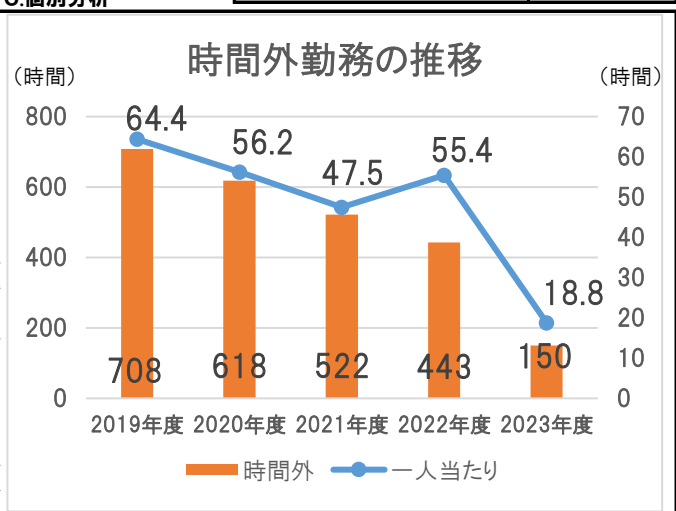
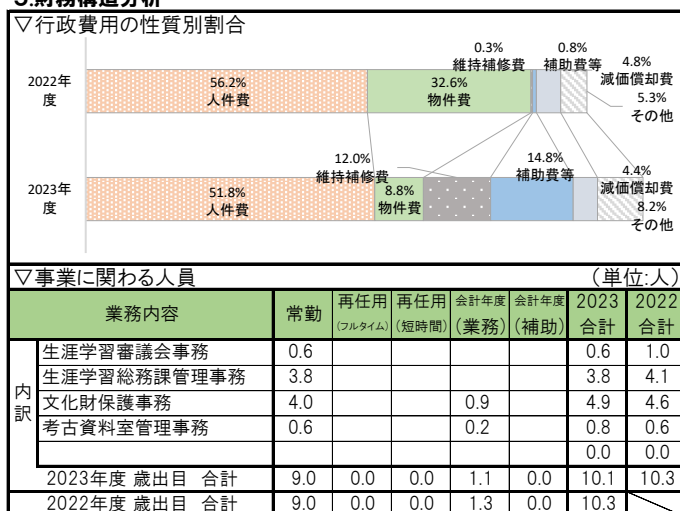
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	14,691	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	160,222	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	5,713
行政サービス活動収支差額(a)	△ 145,531	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 5,713
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 151,244
				一般財源充当調整額	151,244

5.財務構造分析

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆策定した「町田市教育プラン24-28」では、生涯学習推進計画を統合し、生涯学習と学校教育の施策を同じ方針に織り込むことで、生涯にわたって市民が学習しやすい環境づくりを推進するための体制を作ることができました。
- ◆高ヶ坂遺跡見学会(まち歴第10回「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」)には、20名の市民の方に参加いただき、好評を得ました。
- ◆2023年2月に行った展示リニューアルのPRや特別開室により、考古資料室の見学者数は2022年度の621人から686人(+65人)に増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆中学校給食センターの建設に伴う旧忠生第六小学校から新たな場所への文化財等の移転が終了したことなどにより、物件費が2022年度の49,407千円から14,738千円(△34,669千円)に減少しました。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)の整備工事や小山田1号遺跡の修繕などを行ったことにより、維持補修費が2022年度の486千円から20,263千円(+19,777千円)に増加しました。また、国庫支出金が7,537千円から8,932千円(+1,395千円)に、都支出金が870千円から5,109千円(+4,239千円)に増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に定めた各施策及び重点事業を確実に進める必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、未整備部分の工事を着実に推進するとともに、整備後には遺跡の効果的な活用を図る必要があります。
- ◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、新たな保管場所を確保するのか、収蔵庫を修繕するのかなど、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆高ヶ坂石器時代遺跡の未整備箇所の整備を進めるとともに、遺跡の魅力を発信していきます。◆町田の歴史や文化を学ぶことができるデジタルコンテンツを作成するなど、歴史資料の活用を進めます。◆出張歴史授業として、遺跡等を見学するコースを新設するなど、プログラムの充実に取り組みます。	◆「町田市教育プラン24-28」に基づき、各事業を推進します。◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的な更新に向けた検討を行います。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。

2023年度 事業別行政評価シート

部 名		生涯学習部	主管課名		生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の歴史資源(※)の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。 ※歴史資源とは…文化財に限らず、地域の歴史を伝える資料の総称				
基本情報	根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱			
		2021年度	2022年度	2023年度	国指定文化財件数
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	八幡平遺跡公開	見学会実施	牢場遺跡整備	東京都指定文化財件数
	町田デジタルミュージアム進捗状況	構築完了	全面公開	利用促進	町田市指定・登録文化財件数
					埋蔵文化財包蔵地数
					2件
					16件
					58件
					913ヶ所

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについては、今後も継続的に閲覧、活用してもらうための工夫をする必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、公開・活用を図るとともに、未整備部分の工事を着実に推進する必要があります。
- ◆指定文化財については、適切な維持管理を図るとともに計画的な修繕を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆町田デジタルミュージアムの普及促進及び効果的な活用方法を検討します。◆高ヶ坂石器時代遺跡のうち、牢場遺跡の未整備部分を整備し公開・活用します。◆個人等が所有している指定文化財のうち、早急に修繕が必要なものについて修繕等が適切に行うことができるよう支援します。◆文化財の大切さを伝えるため、修繕や整備状況について、ホームページ等で紹介します。		◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして継続的に利用してもらうため、掲載内容の改善・更新を検討します。◆指定文化財については、計画的な修繕等を順次実施します。	
取組状況	○	◆町田デジタルミュージアムを様々な場面でPR・活用しました。◆牢場遺跡の土地整備工事を完了し、公開しました。◆町田市指定有形文化財である妙福寺本堂の銅葺きの屋根の葺き替えや、東京都指定史跡である相原町の青木家屋敷の茅葺屋根の葺き替え等、民有文化財の修繕に対する費用の補助事業を実施しました。◆指定文化財の修繕や整備、イベント等の状況を、ホームページやSNSで発信しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡公開	見学会実施	牢場遺跡整備	八幡平遺跡整備	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牢場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡公開	見学会実施	牢場遺跡整備		(2024年度)	
町田デジタルミュージアムアクセス数	件	目標	-	240,000	380,000	-	380,000	町田デジタルミュージアムのアクセス数
		実績	-	372,749	553,360		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、牢場遺跡内の土地の整備工事を実施・完了し、2024年2月から公開を開始しました。ホームページに整備状況を公開したほか、工事完了後に高ヶ坂遺跡見学会(まち歴史講座第10回「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」)を実施し、周知を図りました。
- ◆町田デジタルミュージアムは、自由民権資料館・考古資料室等での展示や出張事業を実施する際に、町田デジタルミュージアムの二次元コードを活用して周知を図ったほか、地域の歴史に関する小中学校向け出張授業での活用などにより、アクセス数は553,360件となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	38,337	38,185	40,667	2,482	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	22,500	43,193	12,088	△ 31,105		国庫支出金	1,700	3,779	8,932	5,153
	うち委託料	22,404	42,381	11,604	△ 30,777		都支出金	949	870	5,109	4,239
	維持補修費	239	486	15,992	15,506		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	469	457	463	6
	補助費等	1,152	1,149	24,889	23,740		その他	3,102	122	172	50
	減価償却費	4,362	4,362	4,371	9		行政収入 小計(a)	6,220	5,228	14,676	9,448
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 63,939	△ 88,297	△ 89,779	△ 1,482
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,569	6,150	6,448	298		金融収支差額(d)	△ 181	△ 165	△ 149	16
	行政費用 小計(b)	70,159	93,525	104,455	10,930		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 64,120	△ 88,462	△ 89,928	△ 1,466
	特別費用(g)	1,052	0	0	0		特別収入(f)	176	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 876	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)	△ 64,996	△ 88,462	△ 89,928	△ 1,466

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	埋蔵文化財調査委託 3,613千円 村野常右衛門生家管理及び清掃業務委託 1,397千円 旧永井家住宅・旧荻野家住宅保守管理業務委託 1,084千円 など	高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(六期) 13,472千円 都指定史跡小山田1号遺跡西側階段復旧修繕 1,246千円 都指定史跡小山田1号遺跡壁面復旧修繕 691千円 など
主な増減理由	中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校から新たな場所への文化財等の移転が終了したことにより、運搬整理及び廃棄物処分に係る委託料が29,124千円減少。	高ヶ坂石器時代遺跡整備に係る工事費が13,472千円増加。文化財の修繕箇所の増加により、修繕料が2,034千円増加。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	町田市文化財保護事業費補助金 23,959千円 町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 326千円 など	国宝重要文化財保存・活用事業費補助金<史高ヶ坂石器時代遺跡歴史活き活き! 史跡等総合活用整備事業> 7,132千円 など
主な増減理由	民有文化財の修繕に対し補助金を交付したことにより、町田市文化財保護事業費補助金が23,542千円増加。	高ヶ坂遺跡の整備に対し国宝重要文化財保存・活用事業費補助金の交付を受けたことにより、7,132千円増加。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の終了により、2,079千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2023				
		2022				
		2021				
		2023				
		2022				
		2021				

④貸借対照表

(単位:千円)

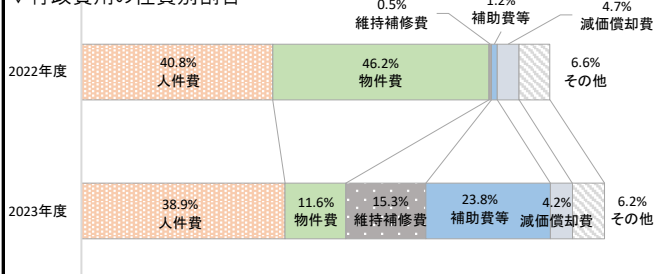
勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			9,240	9,634	394
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		5,713	5,728	15
固定資産	事業用資産	有形固定資産	726,651	722,289	△ 4,362	固定負債	賞与引当金		3,527	3,906	379
		土地	653,734	653,734	0		その他の流動負債		0	0	0
		建物(取得価額)	202,490	202,490	0		負債の部合計		81,117	76,116	△ 5,001
		建物減価償却累計額	△ 129,573	△ 133,935	△ 4,362		地方債		36,296	30,568	△ 5,728
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金		35,581	35,914	333
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債		0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	89	80	△ 9	純資産			645,623	646,253	630
		有形固定資産	0	0	0						
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0		純資産の部合計		645,623	646,253	630
	その他の固定資産		0	0	0	負債及び純資産の部合計			726,740	722,369	△ 4,371
資産の部合計			726,740	722,369	△ 4,371						

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡) 覆屋 27,293千円 など	商標権(まっくう) 80千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、4,362千円減少。	減価償却により、9千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

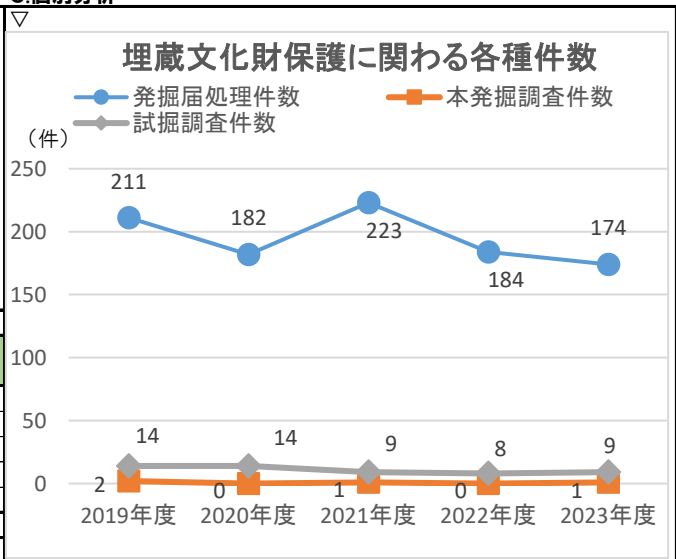


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	文化財保護審議会事務局事務	0.2					0.2	0.5
	文化財保護事務	1.8			0.3		2.1	2.1
	文化財整備保存事業	0.7					0.7	0.5
	埋蔵文化財保護事業	0.8			0.5		1.3	1.4
	文化財普及事業	0.5			0.1		0.6	1.1
2023年度 特定事業 合計		4.0	0.0	0.0	0.9	0.0	4.9	5.6
2022年度 特定事業 合計		5.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.6	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆高ヶ坂遺跡見学会(まち歴第10回「高ヶ坂石器時代遺跡～山本亀三が見た町田の遺跡～」)には、20名の市民の方に参加いただき、好評を得ました。
- ◆町田デジタルミュージアムを紹介する名刺型カードや、町田デジタルミュージアムの二次元コードが記載された「遺跡マップ」を町田ツーリストギャラリー等で配布したほか、小中学校向け出張歴史授業でタブレット端末を活用するなど、町田デジタルミュージアムの認知度を高めたことにより、アクセス数は553,360件になりました。
- ◆町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金を交付している金井の獅子舞保存会が、文部科学大臣から令和5年度地域文化功労者表彰を受賞しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡の牢場遺跡整備を完了させるための工事や小山田1号遺跡の修繕を行ったことにより、維持補修費が2022年度の486千円から15,992千円(+15,506千円)に増加しました。また、国及び都の補助金を活用したことにより、国庫支出金が2022年度の3,779千円から8,932千円(+5,153千円)に、都支出金が870千円から5,109千円(+4,239千円)に増加しました。
- ◆市指定有形文化財である妙福寺本堂の屋根の葺き替え及び都指定史跡である青木家屋敷屋根の葺き替えの2件の大規模な民有指定文化財の修繕に対する補助金を交付したため、補助費等が2022年度の1,149千円から24,889千円(+23,740千円)に増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについて、魅力あるコンテンツとして今後より多くの方に利用していただくため、利用状況を検証し、内容の更新を図る必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、未整備部分の工事を着実に推進するとともに、整備後には遺跡の効果的な活用を図る必要があります。
- ◆民有の指定文化財について、経年劣化に伴う修繕に要する費用の補助等、適切な維持管理のための支援を継続的に行う必要があります。
- ◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆町田デジタルミュージアムの内容更新の検討を行います。◆高ヶ坂石器時代遺跡の未整備箇所の整備を進めるとともに、遺跡の魅力を発信をしていきます。◆2024年度に博物館から移管される本町田遺跡の展示のリニューアルを行います。◆町田の歴史や文化について知り、学ぶことのできるデジタルコンテンツを作成するなど、歴史資料の活用を進めます。	◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的な更新に向けた検討を行います。◆民有の指定文化財について、必要な修繕等の対応ができるよう支援します。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。					
基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要領					
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市考古資料室
	考古資料室見学者数	323	621	686	建設年月日	1991年3月19日
	アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	2(15,711)	2(23,722)	4(25,622)		2021年度 2022年度 2023年度
					有形固定資産減価償却率	61.7% 63.9% 61.6%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆リニューアルした常設展示をより多くの方に見てもらうためのPRが必要です。
- ◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業については、より効果的に学校側のニーズに応えられるよう内容の検討が必要です。
- ◆資料貸出時の破損防止に係る留意点の整理が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆展示リニューアル後の情報発信をホームページ、案内カードの配布などで積極的に行います。		◆見学者の利便性と資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕を検討、実施します。	
◆出張歴史授業については、学校側のニーズを把握し、実施した際のアンケートを利用して、内容の検討、更新を行います。			
取組状況	○	◆バイオエネルギーセンターのイベント等にあわせて、学芸員の展示解説や収蔵庫見学を伴う特別開室を実施しました。◆子どもセンターや高齢者福祉センター等で、アウトリーチ展示を4件行いました。◆小中学校向け出張歴史授業の内容を学校のニーズに沿った内容に見直すため、教員やボランティアコーディネーターへのヒアリングを実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	330	360	650	650	-	考古資料室年間見学者数
		実績	323	621	686			
アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	件(人)	目標	1	2	3	-	3	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数及び見学者数
		実績	2(15,711)	2(23,722)	4(25,622)		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2023年2月に行った展示リニューアルのPRや、バイオエネルギーセンターのイベント等にあわせた特別開室を実施したことにより、考古資料室の見学者数は2022年度の621人を65人上回る686人となりました。◆アウトリーチ展示を、町田ツリストギャラリー、ふれあい桜館(高齢者福祉センター)、子どもセンターまあち、つるっこで実施しました。各施設周辺の遺跡から発掘された土器や土偶などを展示するなど、各地域の遺跡に興味を持っていただけるよう工夫し、見学者数は2022年度の23,722人を1,900人上回る25,622人となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	3,829	5,376	5,981	605	地方税	0	0	0	0
物件費	2,329	6,159	2,472	△ 3,687	国庫支出金	0	3,759	0	△ 3,759
うち委託料	1,744	5,528	1,857	△ 3,671	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	299	0	4,271	4,271	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,967	2,967	2,967	0	行政収入 小計(a)	0	3,759	0	△ 3,759
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 11,295	△ 13,115	△ 16,406	△ 3,291
賞与・退職手当引当金繰入額	1,871	2,372	715	△ 1,657	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	11,295	16,874	16,406	△ 468	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 11,295	△ 13,115	△ 16,406	△ 3,291
特別費用(g)	71	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 71	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 11,366	△ 13,115	△ 16,406	△ 3,291

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 5,981千円	施設管理業務委託料 696千円 除草及び低木剪定業務委託料 691千円 機械警備業務委託料 234千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、605千円増加。	常設展示リニューアルに関する業務委託が終了したことにより、3,759千円減少。施設管理、定期点検、除草及び低木剪定、清掃業務にかかる委託料が87千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	考古資料室屋上他改修工事 4,173千円 展示ケース修繕 98千円	国庫支出金 0千円
主な増減理由	考古資料室屋上他改修工事の実施により、4,173千円増加。	2022年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して行った常設展示のリニューアルが終了したことにより、3,759千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりコスト	人	2023	26,308	624	△ 69	考古資料室とアウトリーチ展示の見学者数が1,965人増加し、行政費用が468千円減少したため、見学者1人あたりのコストは、2022年度と比較して69円(10.0%)減少し、624円となりました。
		2022	24,343	693	△ 11	
		2021	16,034	704	△ 100	
		2023				
		2022				
		2021				

④貸借対照表

(単位:千円)

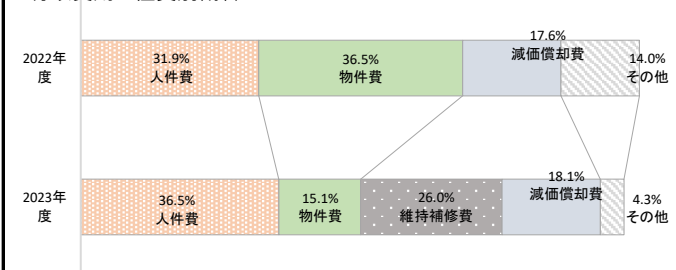
勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	514	570	56
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
					賞与引当金	514	570	56
固定資産	有形固定資産	101,193	108,746	7,553	その他の流動負債	0	0	0
	土地	54,688	54,688	0	固定負債	5,277	5,108	△ 169
	建物(取得価額)	131,142	141,200	10,058	地方債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 84,637	△ 87,142	△ 2,505	退職手当引当金	5,277	5,108	△ 169
	工作物(取得価額)	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	5,791	5,678	△ 113
	無形固定資産	0	0	0	純資産	97,664	104,868	7,204
	有形固定資産	0	0	0				
	土地	0	0	0				
	工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0				
	無形固定資産	0	0	0				
	建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	97,664	104,868	7,204
その他の固定資産	2,262	1,800	△ 462	負債及び純資産の部合計	103,455	110,546	7,091	
資産の部合計		103,455	110,546	7,091				

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	考古資料室 141,200千円	須恵器横瓶 1,800千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により2,505千円減少し、空調設備改修工事の実施により10,058千円増加。	土製耳飾りレプリカの減価償却により、462千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



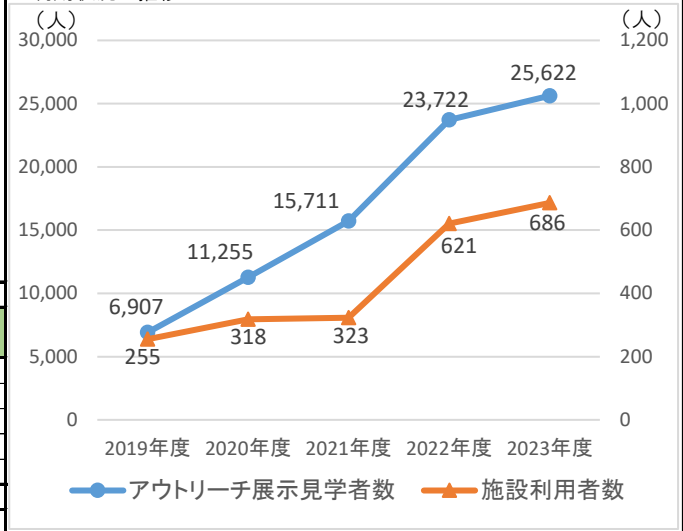
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
考古資料室管理事務	0.6			0.2		0.8	0.7
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.7
2022年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆2022年度の常設展示リニューアル後、2023年度も引き続き特別開室やアウトリーチ展示を積極的に行った結果、考古資料室とアウトリーチ展示の見学者数は合わせて26,308人となり、展示リニューアル前の2021年度と比較して10,274人(64.1%)増加しました。
◆特別開室日には、学芸員による展示解説や、普段公開していない収蔵庫の見学を実施したことで、9月は2日間で合計32人、3月は44人の見学者があり、アンケートにて、「地元、町田からこんなに出土しているとは思わなかった」、「学芸員がどんなことをするのか間近で見ることができてうれしかった」、「説明があるのと興味があった」等好意的なご意見を多くいただきました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2022年度に常設展示のリニューアルが完了したことによって、物件費は2022年度の6,159千円から2,472千円(△3,687千円)に減少しました。また、国からの交付金が終了したため、国庫支出金が3,759千円減少しました。◆行政費用は、2021年度と比較して11,295千円から16,406円(+5,111千円)に増加していますが、見学者の増加により、見学者1人あたりのコストは704円から624円(△80円)に減少しました。◆設備、備品の老朽化等に対応するため、屋上防水、建具・内装改修、展示ケースの修繕を実施したため、維持補修費が2022年度の0円から4,271千円(+4,271千円)に増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆2023年2月に行った常設展示のリニューアル後、見学者数は増加していますが、引き続き、より多くの方に見学していただくためのPRが必要です。
◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業について、より多くの学校に利用していただけるようなプログラムを提供する必要があります。
◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、新たな保管場所を確保するのか、収蔵庫を修繕するのかなど、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆まちだ縄文キャラクター「まっくう」を活用するとともに、アウトリーチ展示や出張歴史授業等を通じて、収蔵する考古資料の周知・PRを積極的に行います。 ◆出張歴史授業として、考古資料室を見学してもらうコースを新設するなど、プログラムの充実に取り組みます。	◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
----	-------	----	---------	------	----------

1.組織概要

事業類型 e:事業型(施設運営)

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集、保管し、調査、研究の成果で展示などをおこない、町田市の郷土資料館として、自由民権運動と町田の歴史について市民の理解を深めます。				取 他 り 自 治 体 等 の	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。また、自由民権運動、近代史を専門とする学芸員が在籍しているのは、町田市立自由民権資料館だけです。		
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査、研究及び、図書の刊行。普及事業の講座、各種イベントの開催に関すること。							
基本情報	根拠法令等							
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立自由民権資料館		
	開館日数	268	258	307	建設年月日	1986年3月31日		
	特別展・企画展開催回数	4	3	2		2021年度	2022年度	2023年度
	講座実施回数	63	32	79	有形固定資産減価償却率	42.4%	44.4%	45.3%

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆リニューアルした常設展示をより多くの方に観てもらうためのPRやイベントを行う必要があります。
- ◆歴史講座では幅広い利用者層を開拓するため、講座の内容、実施方法を検討する必要があります。
- ◆施設の老朽化に伴い、維持補修費が年々増加しているため、計画的な修繕が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆夏休み期間中、養蚕の歴史を振り返る「町田のおカイコさん展」を自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターで同時開催します。また、町田市の郷土資料館として市民、特に小中学生に愛着を持ってもらえるよう、愛称を募集します。◆歴史講座の内容、実施方法を検討し、プログラムを再編します。		◆新たな『町田市史』編さんに向けて重要史料群の整理を継続できる体制を整えます。◆修繕費、光熱水費の上昇が見込まれるため、適切な展示・収蔵環境を維持できる計画を検討します。	
取組状況	○ ◆多くの小中学生に来館していただけるよう、企画展「町田のおカイコさん」を夏休み期間中に開催しました。また、関連イベントとして、講演会・展示解説・ワークショップを開催しました。◆町田市の郷土資料館として、市民、特に小中学生に愛着を持ってもらえるよう愛称を募集し「まちれき」に決定しました。◆「町田の歴史をいろいろ知りたい!もっと知りたい!」という方に向けた「まち歴史講座」を、多様な内容・形式で11回実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,200	7,200	年間利用者数(出張講座等の施設外利用者含む)
		実績	5,809	5,891	7,932			
重要資料群の整理率	%	目標	-	47.5	55.0	62.5	100	歴史資料約15万件中、重要史料群約5万3千件の整理率
		実績	40.0	48.2	55.0		(2029年度)	

②成果指標およびその他の成果の説明

- ◆自由民権資料館の企画展として、「町田のおカイコさん」および「市民の歴史探求事始め～町田自由民権カレッジ4期生の成果～」を開催しました。また、「まち歴史講座」等の歴史講座を79回、市庁舎イベントスタジオでの展示を実施した結果、利用者数は7,932人となり、2022年度と比較して2,041人(35%)増加しました。◆歴史資料の中で特に重要となる4家の重要資料群の整理について、2023年度の目標としていた整理率55%を達成しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	40,852	45,188	44,567	△ 621	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	871	280	118	△ 162	保険料	0	0	0	0
物件費	10,232	14,874	13,290	△ 1,584	国庫支出金	0	4,062	0	△ 4,062
うち委託料	5,801	9,893	6,505	△ 3,388	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	780	1,619	876	△ 743	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	948	706	932	226	その他	476	292	504	212
減価償却費	9,970	9,970	9,970	0	行政収入 小計(a)	476	4,354	504	△ 3,850
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 67,585	△ 73,809	△ 75,687	△ 1,878
賞与・退職手当引当金繰入額	5,279	5,806	6,556	750	金融収支差額(d)	△ 84	△ 84	0	84
行政費用 小計(b)	68,061	78,163	76,191	△ 1,972	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 67,669	△ 73,893	△ 75,687	△ 1,794
特別費用(g)	992	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 992	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 68,661	△ 73,893	△ 75,687	△ 1,794

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員給与等 24,170千円 会計年度任用職員報酬等 20,397千円	自由民権資料館光熱水費 4,557千円 自由民権資料館総合管理業務委託 2,361千円 自由民権資料館樹木剪定業務委託 994千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が621千円減少。	電気料の単価上昇などにより、光熱水費が1,333千円増加。ポスターチラシ印刷の単価上昇により、印刷製本費が276千円増加。常設展のリニューアル、Wi-Fi環境整備の完了に伴い、委託料が3,388千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	自由民権資料館浄化槽No.2プロア交換修繕 699千円 自由民権資料館エレベーターバッテリー交換修繕 96千円 自由民権資料館擁壁修繕 39千円 など	国庫支出金 0千円
主な増減理由	2022年度に比べ、緊急修繕箇所の規模が小さかったことにより、743千円減少。	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の終了により、4,062千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2023	7,932	9,606	△ 3,662	市民により身近に感じられるテーマでの企画展や歴史講座を開催した結果、自由民権資料館利用者数が2,041人増加したため、2022年度と比較して、施設利用者1人あたりのコストは3,662円減少しました。
		2022	5,891	13,268	1,552	
		2021	5,809	11,716	△ 4,179	
		2023				
		2022				
		2021				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		8,366	9,396	1,030
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	4,902	4,902	0
固定資産	有形固定資産	610,230	612,440	2,210	固定負債	賞与引当金	3,464	4,494	1,030
	土地	334,577	334,577	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	490,459	502,479	12,020		地方債	79,098	79,098	0
	建物減価償却累計額	△ 214,806	△ 224,616	△ 9,810		退職手当引当金	25,807	26,254	447
	工作物(取得価額)	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0		負債の部合計	113,271	114,748	1,477
	無形固定資産	0	0	0	純資産		497,441	498,013	572
	有形固定資産	0	0	0					
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0					
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	482	321	△ 161		純資産の部合計	497,441	498,013	572
	資産の部合計	610,712	612,761	2,049		負債及び純資産の部合計	610,712	612,761	2,049

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	自由民権資料館 502,479千円	平型覗きガラスケース 321千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により9,810千円減少し、館収蔵庫空気調和設備改修工事の実施により12,020千円増加。	減価償却により、161千円減少。

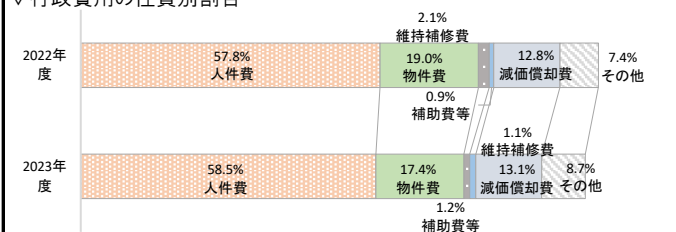
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	504	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	64,744	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 64,240	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 64,240
				一般財源充当調整額	64,240

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



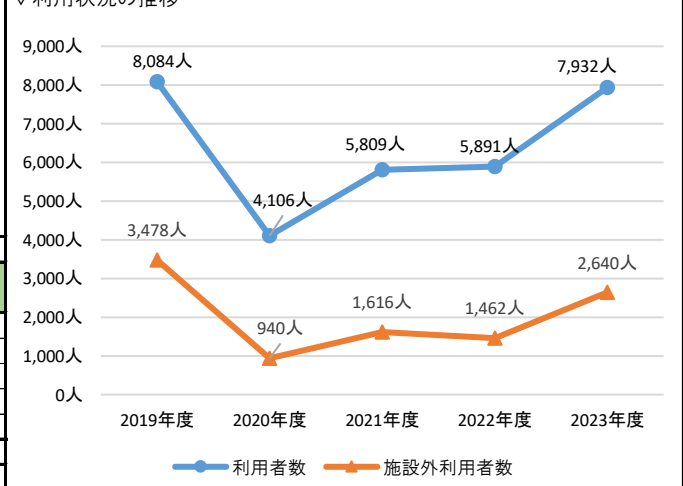
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
資料館管理事務	1.4			0.2	0.3	1.9	2.0
資料保管事務	0.3			1.5	0.6	2.4	2.4
展示事務	0.5			1.6		2.1	2.3
図書刊行	0.1			0.3		0.4	0.3
普及事務	0.7			1.1		1.8	1.1
2023年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	4.7	0.9	8.6	8.1
2022年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	4.2	0.9	8.1	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆養蚕の歴史を振り返る企画展「町田のおカイコさん」を自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターで同時開催しました。夏休み期間中、小中学生とその家族をターゲットに、分かりやすい内容にしたことで、会期中1,708人が来館し、両施設利用者の合計は2022年度の11,077人から13,573人(+2,496人)に増加しました。◆郷土資料館として市民に愛着を持ってもらえるよう、近隣の小中学校などに呼びかけて愛称を募集し、5つの候補の中から来館者投票を経て、愛称を「まちれき」に決定しました。多くの小中学生とその家族が訪れた「町田のおカイコさん」展の期間中に308件の投票がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆まち歴史講座や古文書講座および出張歴史授業などの充実を図り、2022年度の32回から79回(+47回)に増やして実施しました。その結果、施設外利用者数が2022年度の1,462人から2,640人(+1,178人)に増加し、施設利用者1人あたりのコストが3,662円減少しました。◆施設・設備の老朽化が進んでいるため、関係部署と連携しながら適切な修繕を実施しました。高額な事案がなかったため、維持補修費は1,619千円から876千円(△743千円)に減少しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆小中学生に町田の歴史に興味を持ってもらうため、出張歴史授業の活用が進むよう市内小中学校への周知を工夫するとともに、授業プログラムやコンテンツの充実を図ることが必要です。◆市内小中学校に保管されている歴史的な資料の散逸を防ぐため、資料の現状記録、整理、評価、目録作成などの体制を整え、対応する必要があります。◆施設の老朽化に伴う計画的な修繕が必要です。また、大切な資料を守るため、展示環境や収蔵環境を最適な状態に保つことが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆歴史出張授業を活用してもらうため、プログラム内容の見直しを行います。 ◆いつでも、どこでも歴史に触れられるよう、デジタルコンテンツの作成に取り組みます。◆幅広い世代に展示内容の理解を深めてもらうため、企画展の展示物の解説をまとめた図録を作成します。	◆市内小中学校に保管されている歴史的な資料の整理等を進め、資料の評価、保管方法等を関係者間で共有し、適正に継承できるような体制を整えます。◆資料の展示・収蔵環境を維持するため、総合的有害生物管理(IPM)及び施設の修繕計画を検討します。

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。	他自治体の取り組み等	◆町田第一中学校では、地域団体に向けた特別教室の貸出に加え、図書室を学習スペースとして個人向けに開放しています。図書室には、地域の学生が学習支援員として常駐し、利用者の学習相談に応じています。このように、中学校の図書室を活用して、世代を問わず学習支援を行っている事例は、都内他市町村ではありません。
所管事務	◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に関すること		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
- ◆市民の学習機会を充実させるため、事業の地域展開(アウトリーチ)を推進するとともに、学習情報を得られやすい環境を整備する必要があります。
- ◆市民の主体的な学習活動を支援するため、施設利用の促進に向けた検討が必要です。
- ◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆講座事業の整理と体系化を進めます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しを進めます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。	◆事業のデジタル化を推進するために、これまでの事業の検証と実施方法の検討を行います。
◆施設の利用促進策として学習スペースの充実などに取り組みます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しに着手しました。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しに着手しました。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しに着手しました。
◆デジタルデバインド事業は、地域展開の拡充に取り組めます。	◆急激に進むデジタル化に対応するため、引き続き「なんでもスマホ相談室」を開催しました。「出張なんでもスマホ相談室」は24回実施し、地域での学習機会を創出しました。また、新たな社会的課題に対応する講座として、「ICTリテラシー講座」を開催しました。	◆急激に進むデジタル化に対応するため、引き続き「なんでもスマホ相談室」を開催しました。「出張なんでもスマホ相談室」は24回実施し、地域での学習機会を創出しました。また、新たな社会的課題に対応する講座として、「ICTリテラシー講座」を開催しました。	◆急激に進むデジタル化に対応するため、引き続き「なんでもスマホ相談室」を開催しました。「出張なんでもスマホ相談室」は24回実施し、地域での学習機会を創出しました。また、新たな社会的課題に対応する講座として、「ICTリテラシー講座」を開催しました。
◆施設の老朽化に対応するため、施設の計画的な修繕を進めます。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	70	70	70	70	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合(新型コロナワクチン接種による利用を除く)
		実績	58	56	60		(2028年度)	
学習成果を今後、いかにせると答えた人の割合	%	目標	-	71	86	88	89	講座実施後に行うアンケートの回答で得られた割合
		実績	-	85	88		(2026年度)	
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	6(3)	7(3)	8(4)	-	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業 ()は地域での実施数
		実績	6(3)	7(1)	7(1)		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆新型コロナワクチン接種会場として施設の一部を利用したため、定期的な活動を控えた団体もいたことから、施設利用率は60%に留まりました。
- ◆デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」等の受講者アンケート結果で、学習成果を今後活かせると答えた人の割合は88%になりました。
- ◆市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」は7事業のうち1事業を、生涯学習センターの利用が少ない若年層向け講座として実施しました。地域では「まちチャレ」1事業のほか、「出張なんでもスマホ相談室」や「小学校低学年の保護者向け講座」などを実施し、市民の学習ニーズに対応しました。
- ◆障がい者青年学級や市民大学の見直しに向け、生涯学習センター運営協議会等において意見を伺いながら、課題と取組の方向性を検討しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	152,218	156,841	156,031	△ 810	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	8,991	8,822	7,047	△ 1,775		保険料	0	0	0	0
	物件費	41,637	56,771	58,286	1,515		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	19,984	28,489	34,040	5,551		都支出金	8,892	16,662	16,417	△ 245
	維持補修費	958	3,209	1,077	△ 2,132		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	4,319	6,997	9,248	2,251
	補助費等	57,846	57,833	56,951	△ 882		その他	1,835	2,020	1,827	△ 193
	減価償却費	18,507	18,109	18,109	0		行政収入 小計(a)	15,046	25,679	27,492	1,813
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 288,914	△ 279,371	△ 294,300	△ 14,929
	賞与・退職手当引当金繰入額	32,794	12,287	31,338	19,051		金融収支差額 (d)	△ 2,365	△ 1,068	0	1,068
	行政費用 小計 (b)	303,960	305,050	321,792	16,742		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 291,279	△ 280,439	△ 294,300	△ 13,861
	特別費用 (g)	3,761	0	0	0		特別収入 (f)	0	302	0	△ 302
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,761	302	0	△ 302	当期収支差額 (e)+(h)	△ 295,040	△ 280,137	△ 294,300	△ 14,163		

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	補助費等
決算額の主な内訳	常勤職員 125,917千円 会計年度任用職員 25,184千円 再任用職員 3,636千円 会計年度任用補助職員報酬 1,294千円	町田センタービル管理費負担金 47,267千円 障がい者青年学級担当者謝礼 4,906千円 市民大学講座講師謝礼 1,576千円 さがまちコンソーシアム年会費 1,000千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、810千円減少。	施設の老朽化などにより、町田センタービル管理費負担金が77千円増加。 事業内容の見直しを行ったことにより、講師謝礼が333千円減少。
勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 19,834千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 14,836千円 町田第一中学校学習支援事業等業務委託 11,118千円 デジタルデバインド対応促進事業業務委託 2,147千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 12,218千円 障がい者施策推進包括補助事業費補助金 2,871千円 家庭教育支援基盤形成事業費補助金 1,041千円 人生100年時代セカンドライフ応援事業費補助金 287千円
主な増減理由	2022年8月から開始した町田第一中学校学習支援事業が通年実施となったことにより、委託料が3,500千円増加。電気・ガス料金の激変緩和措置により、生涯学習センター光熱水費が2,531千円減少。	ことぶき大学事業の講師謝礼などの特定財源である都補助金の減少により、人生100年時代セカンドライフ応援事業費が242千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			13,065	15,747	2,682	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			778	778	0	
							賞与引当金			12,287	14,969	2,682	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		2,170,588	2,152,479	△ 18,109	その他の流動負債			0	0	0	
		土地		1,706,823	1,706,823	0	固定負債			116,187	134,322	18,135	
		建物(取得価額)		778,241	778,241	0	地方債			3,889	13,111	9,222	
		建物減価償却累計額		△ 314,476	△ 332,585	△ 18,109	退職手当引当金			112,298	121,211	8,913	
		工作物(取得価額)		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	負債の部合計			129,252	150,069	20,817	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産			2,045,581	2,006,655	△ 38,926	
		有形固定資産		0	0	0							
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
		工作物減価償却累計額		0	0	0							
	建設仮勘定	無形固定資産		0	0	0							
				0	0	0							
その他の固定資産			4,245	4,245	0	純資産の部合計			2,045,581	2,006,655	△ 38,926		
資産の部合計				2,174,833	2,156,724	△ 18,109	負債及び純資産の部合計				2,174,833	2,156,724	△ 18,109

④貸借対照表の特徴的事項

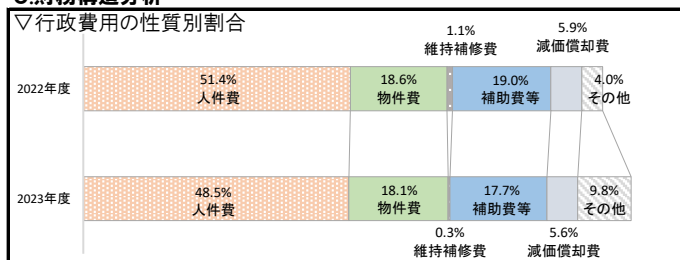
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有持分100万分の254,148)	生涯学習センター 778,241千円	重要物品 1,260千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、18,109千円減少。	増減なし

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

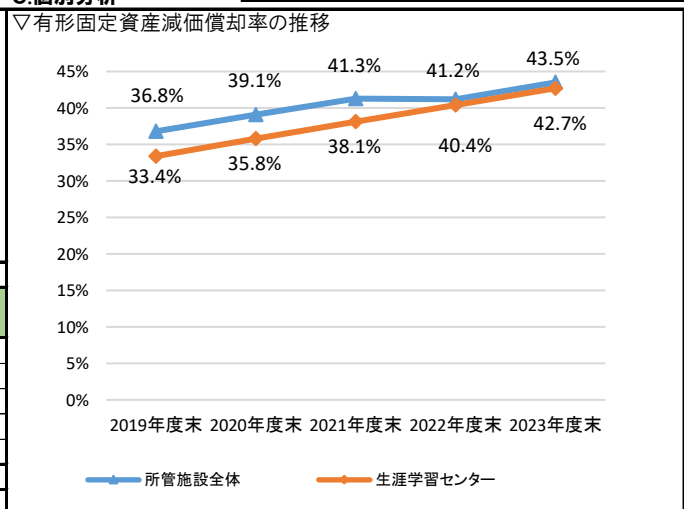
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	27,492	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	10,000
行政サービス活動支出	292,089	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	778
行政サービス活動収支差額(a)	△ 264,597	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	9,222
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 255,375
				一般財源充当調整額	255,375

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
生涯学習センター管理事務	5.6	0.3	0.4			6.3	4.7
生涯学習支援事業	2.8		0.3	0.9		4.0	3.9
生涯学習講座事業	6.1			5.8	0.7	12.6	14.1
施設管理	0.5	0.5	0.9			1.9	2.1
						0.0	0.0
2023年度 歳出目 合計	15.0	0.0	1.1	8.0	0.7	24.8	24.8
2022年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.1	7.9	0.8	24.8	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆生涯学習センターの施設利用は、ワクチン接種会場としての利用を継続したため目標の利用率70%には達しませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、市民の学習活動が再開されたため、利用率が2022年度の56%から60%(+4ポイント)に増加しました。また、週2回、夜間に視聴覚室を学習エリアとして開放したため、若年層の利用が増加しました。◆講座実施後に行うアンケートで「学習成果を今後、いかせると答えた人の割合」は、「出張なんでもスマホ相談室」の実施回数を増やし、様々な地域で学びの機会を拡充したことなどにより、2022年度の85%から88%(+3ポイント)に増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2022年8月から開始した町田第一中学校特別教室の地域利用や図書室での学習支援を通年実施し、利用者が2022年度の5,386人から9,820人(+4,434人)に増加したことなどにより、委託料が2022年度の28,489千円から34,040千円(+5,551千円)に増加しました。◆利用団体の活動が回復傾向にあることや新たな利用者が増えたことで施設利用率が2022年度の56%から60%(+4%)に増加したことなどにより、使用料及び手数料は2022年度の6,997千円から9,248千円(+2,251千円)に増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、引き続き事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
- ◆効果的・効率的な施設運営のため、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。
- ◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進や、より多くの市民が学習情報を得やすい環境整備をする必要があります。
- ◆施設修繕に伴う休館について、市民が学習活動を継続できるよう、計画的に準備を進めていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆民間活力の導入範囲拡大に向けた準備を進めます。 ◆講座のデジタル化を推進するため、効率的な実施方法を検討します。 ◆施設修繕に伴う休館中も、市内の公共施設等で講座を実施します。 ◆引き続き、障がい者青年学級と市民大学の見直しを進めます。	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。 ◆見直しを行ったものから、新たな事業運営及び管理運営体制での運用を開始します。

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
事業類型				a:施設所管型	

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	他自治体の 取り組み等	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市ありますが、それに加えてスマートフォンによる蔵書点検やより詳細な所在位置情報を案内できるセルフ予約棚の設置を実現する、ICタグ・カラーバーコードシステムを導入しているのは町田市だけです。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関する事 ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事 ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関する事 ◆読書普及を目的とした各種行事に関する事 ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事 ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関する事 ◆町田市立図書館協議会に関する事		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
◆説明会で示した鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。◆電子書籍サービスは目標を上回る成果をあげたことから、この状況を継続させるため、利用普及に向けて取り組む必要があります。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、一緒に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換に向けた準備を進めます。◆多くの方に電子書籍サービスを利用してもらえるよう、コンテンツの紹介やPR活動に取り組めます。◆若者からの提案による図書館でのイベントの実現に向けて取り組みます。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。	
取組状況	◎	◆鶴川図書館再編後の運営を担う運営団体を11月に設立しました。2月～3月には施設改修を実施し、コミュニティスペースを創出しました。3月には運営団体が企画したイベントをコミュニティスペースを活用して実施しました。◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取り組むとともに、市内公立小・中学校の児童・生徒のタブレット端末で利用可能とした結果、104,297点の貸出がありました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)(電子書籍は含まない)
		実績	3,210,351	3,169,888	3,029,503		(2024年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.30	3.30	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したものの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)(電子書籍は含まない)
		実績	2.62	2.58	2.49		(2024年度)	
来館者数	人	目標	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	1,486,517	1,689,005	1,746,412		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2022年度と比較して貸出点数は140,385点減少しましたが、来館者数は57,407人増加しました。◆11月下旬から12月上旬にかけて全館で図書館アンケートを実施し、総合満足度は94.8%でした。◆運営団体設立準備会での議論を重ね、11月に(一社)つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会を設立しました。◆高校生から大学生を中心とした図書館プランナーが定期的に会議を開催し、本の福袋に入れる本の選定など2024年度のイベント実施に向けた準備を進めました。◆図書館以外の予約受渡し施設での貸出数は6施設で2022年度と比較して6,989点増加し67,508点の貸出がありました。◆電子書籍サービスは児童・生徒のタブレットで利用可能としたことなどにより、2022年度と比較して85,117点増加し104,297点の貸出がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	733,553	693,605	715,716	22,111	地方税	0	0	0
	うち時間外勤務手当	12,614	12,756	15,300	2,544	保険料	0	0	0
	物件費	286,821	423,500	399,918	△ 23,582	国庫支出金	0	0	1,290
	うち委託料	110,624	203,213	206,459	3,246	都支支出金	1,626	13,519	15,069
	維持補修費	15,116	9,583	11,906	2,323	分担金及負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	11	11
	補助費等	54,607	55,264	54,451	△ 813	その他	1,553	2,449	2,289
	減価償却費	49,756	48,056	40,744	△ 7,312	行政収入 小計(a)	3,190	15,979	18,659
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,205,256	△ 1,264,236	△ 1,316,836
	賞与・退職手当引当金繰入額	68,593	50,207	112,760	62,553	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用 小計(b)	1,208,446	1,280,215	1,335,495	55,280	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,205,256	△ 1,264,236	△ 1,316,836
	特別費用(g)	51,395	35,629	62,537	26,908	特別収入(f)	1,207	9,322	1,301
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 50,188	△ 26,307	△ 61,236	△ 34,929	当期収支差額(e)+(h)	△ 1,255,444	△ 1,290,543	△ 1,378,072
									△ 87,529

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	国庫支出金
決算額の主な内訳	常勤職員 348,216千円 会計年度業務職員 319,789千円 再任用職員 34,225千円 会計年度補助職員 13,139千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,290千円
主な増減理由	システム更改に伴う人員増等職員構成の変動などにより、22,111千円増加。	電気料金などを対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増加により、1,290千円増加。
勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	鶴川駅前図書館指定管理委託料 110,571千円 ICタグ・カラーバーコードシステム使用料 84,563千円 図書館情報システム使用料 42,930千円 中央図書館施設運営補助業務委託料 41,118千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 15,069千円
主な増減理由	電動式移動棚・制御交換修繕が完了したことにより、備品修繕に係る費用が28,880千円減少。 電子書籍点数の増加により、コンテンツ使用料が4,510千円増加。	電子書籍点数の増加などにより、子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が2,936千円増加。 市町村総合交付金が1,386千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	50,207	70,111	19,904	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	933,746	893,933	△ 39,813	賞与引当金	50,207	70,111	19,904
		土地	343,044	343,044	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	1,644,891	1,644,891	0	固定負債	341,285	361,686	20,401
		建物減価償却累計額	△ 1,054,189	△ 1,094,002	△ 39,813	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	341,285	361,686	20,401
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	391,492	431,797	40,305
		有形固定資産	0	0	0	純資産	2,823,688	2,733,293	△ 90,395
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
		工作物減価償却累計額	0	0	0				
		無形固定資産	0	0	0				
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	2,281,434	2,271,157	△ 10,277	純資産の部合計	2,823,688	2,733,293	△ 90,395		
資産の部合計		3,215,180	3,165,090	△ 50,090	負債及び純資産の部合計	3,215,180	3,165,090	△ 50,090	

④貸借対照表の特徴的事項

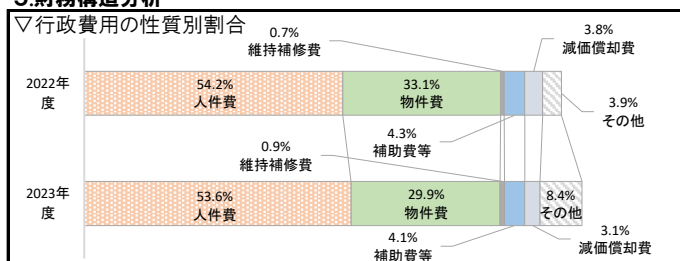
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 130,612千円 木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 2,259,040千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 5,517千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、39,813千円減少。	購入・寄贈 除籍などにより、図書資産が9,346千円減少。減価償却により、忠生図書館書架等備品が931千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

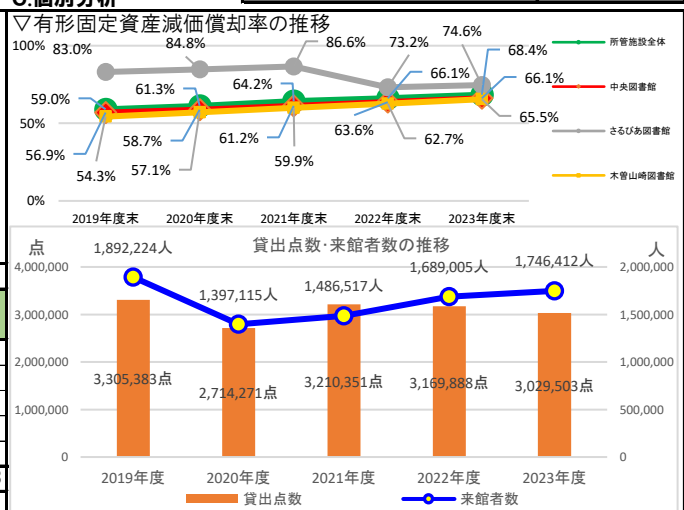
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	17,737	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,254,446	社会資本整備等投資活動支出	36,948	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,236,709	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 36,948	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,273,657
				一般財源充当調整額	1,273,657

5.財務構造分析



6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆外国語の絵本・児童書を約1,400点購入し、その蔵書数は約8,300点になり、貸出点数は3,000点以上増加し、17,100点となりました。◆デジタルデバイス活用に向けて、スマートフォンの初心者向け講座を3回開催し49人の参加がありました。またスマートフォン・タブレット端末の操作について個別相談会を開催し20回134人の参加がありました。◆2023年5月より久美堂本町田にて、6番目の予約受渡し場所としてサービスを開始し、6,579点の貸出がありました。◆読み聞かせに関わる活動をしている保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座(3回29人参加)を開催しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、システム更改に伴う人員増等職員構成の変動などにより22,111千円増加しました。◆物件費は、電子書籍点数の増加によりコンテンツ使用料が4,510千円増加した一方、電動式移動棚・制御交換修繕が完了したことなどにより23,582千円減少しました。◆国庫支出金は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増加により1,290千円増加しました。◆電子書籍サービスは東京都の補助金「子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金」15,069千円を活用しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆2025年度に鶴川図書館を民設民営の図書コミュニティ施設に転換するための準備として、運営団体への支援が必要です。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、必要なサポートを行います。◆電子書籍サービスにつきましては引き続き利用促進に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆鶴川図書館を図書コミュニティ施設へ転換する準備を進めます。◆若者からの提案による図書館でのイベントの実現に向けて取り組みます。◆電子書籍サービスは学校との連携、および各種利用促進事業を継続します。◆図書館システム更改を実施し、利用者の利便性を高めます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立中央図書館		
	蔵書数(視聴覚資料含む)	579,286点	580,278点	581,259点	建設年月日	1990年4月16日		
	予約・リクエスト件数	171,697件	157,344件	134,937件		2021年度	2022年度	2023年度
	貸出者数	300,353人	295,924人	281,263人	有形固定資産減価償却率	61.2%	63.6%	66.1%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆増加している来館者を読書に繋げていくため、中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを生かし、図書館の活用に関する講座や他機関・他部署と連携した特集コーナーの展開など行っていく必要があります。◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。◆若者から提案を受けたイベントの実現に向けて、引き続き支援をしていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	◎	◆市立図書館の中心館として読書普及に向けたイベントや講座を実施します。 ◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取り組むとともに、学校との連携を検討します。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、空調設備点検等の結果を活用し、小中集会室や選定室など空調設備改修工事など、施設設備の計画的修繕を行います。
		◆他部署や他機関と連携した特集コーナーを28回設置しました。◆高校・大学生を中心とした図書館プランナーが定期的に会議を開催し、2024年度のイベント実施に向けた準備を進めました。◆図書館を活用してもらうための講座等を開催し91人の参加がありました。◆出版に関する講演会を開催し88人の参加がありました。◆市内全公立小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスIDを付与しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む、電子書籍は含まない)
		実績	863,199	848,298	809,106		(2024年度)	
来館者数	人	目標	612,000	612,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	460,293	526,063	546,529		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2022年度と比較して来館者数は20,466人増加しましたが、目標値には至りませんでした。◆英語図書の活用や英語多読の周知のため、2回開催した英語多読講演会に63人、保護者向け(親子で参加)英語絵本読み聞かせ講座に11組の参加がありました。◆デジタルデバッド解消に向けた講習会「はじめてのスマホ体験」を3回開催、スマートフォン・タブレット個別相談会を20回開催、合計183人の参加がありました。◆中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は延べ230組563人が利用しました。◆MSP(町田創造プロジェクト)と連携したボードゲーム体験イベントを8月に開催し13人の参加がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	295,864	331,027	343,202	12,175	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	物件費	116,541	162,562	134,109	△ 28,453	国庫支出金	0	0	1,290	1,290	0	0	0	0	0	0	
	うち委託料	52,942	58,705	58,038	△ 667	都支支出金	1,626	8,520	8,963	443	0	0	0	0	0	0	
	維持補修費	14,070	5,026	9,657	4,631	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	補助費等	54,396	54,984	54,172	△ 812	その他	890	1,605	1,394	△ 211	0	0	0	0	0	0	
	減価償却費	34,830	34,830	34,830	0	行政収入 小計(a)	2,516	10,125	11,647	1,522	0	0	0	0	0	0	
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 542,232	△ 640,897	△ 615,379	25,518	0	0	0	0	0	0	
	賞与・退職手当引当金繰入額	29,047	62,593	51,056	△ 11,537	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行政費用 小計 (b)	544,748	651,022	627,026	△ 23,996	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 542,232	△ 640,897	△ 615,379	25,518	0	0	0	0	0	0	
特別費用 (g)	25,170	17,641	16,159	△ 1,482	特別収入 (f)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 25,170	△ 17,641	△ 16,159	1,482	当期収支差額 (e)+(h)	△ 567,402	△ 658,538	△ 631,538	27,000								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	国庫支出金
決算額の主な内訳	常勤職員 200,942千円 会計年度任用職員 127,826千円 再任用職員 14,238千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,290千円
主な増減理由	システム更改に伴う人員増等職員構成の変動などにより、12,175千円増加。	電気料金などを対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増加により、1,290千円増加。
勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	中央図書館施設運営補助業務委託料 41,118千円 ICタグ・カラーバーコードシステム使用料 27,314千円 図書館情報システム使用料 13,867千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 8,963千円
主な増減理由	電動式移動棚・制御交換修繕が完了したことにより、備品修繕に係る費用が28,880千円減少。 電子書籍点数の増加によりコンテンツ使用料が2,369千円増加。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が1,829千円増加。 市町村総合交付金が1,386千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	809,106	775	8	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが8円増加しました。
		2022	848,298	767	136	
		2021	863,199	631	△ 117	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	5,968	105,065	△ 4,020	人件費は増加した一方、物件費が減少したことにより、単位あたりコストが4,020円減少しました。
		2022	5,968	109,085	17,807	
		2021	5,968	91,278	△ 2,774	

④貸借対照表

(単位:千円)

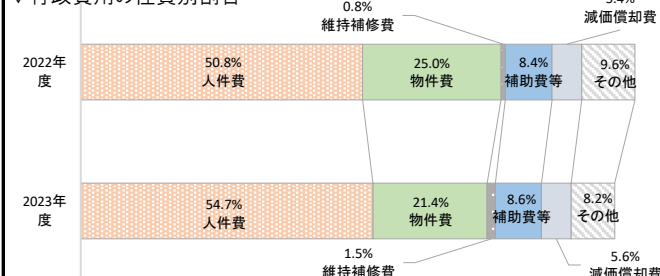
勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			25,079	33,765	8,686
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		0	0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	774,429	739,599	△ 34,830	賞与引当金		25,079	33,765	8,686	
		土地	262,513	262,513	0	その他の流動負債		0	0	0	0
		建物(取得価額)	1,402,817	1,402,817	0	固定負債		200,784	205,437	4,653	
		建物減価償却累計額	△ 890,901	△ 925,731	△ 34,830	地方債		0	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		200,784	205,437	4,653	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		225,863	239,202	13,339	
		有形固定資産	0	0	0	純資産		1,869,367	1,828,935	△ 40,432	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
無形固定資産		0	0	0							
建設仮勘定	0	0	0								
その他の固定資産		1,320,801	1,328,538	7,737	純資産の部合計		1,869,367	1,828,935	△ 40,432		
資産の部合計		2,095,230	2,068,137	△ 27,093	負債及び純資産の部合計		2,095,230	2,068,137	△ 27,093		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,398)	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	図書資産 1,321,938千円 出資金(エルム・スリー管理株)6,600千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、34,830千円減少。	購入19,735千円、寄贈4,161千円、除籍△14,861千円などにより、図書資産が7,737千円増加。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



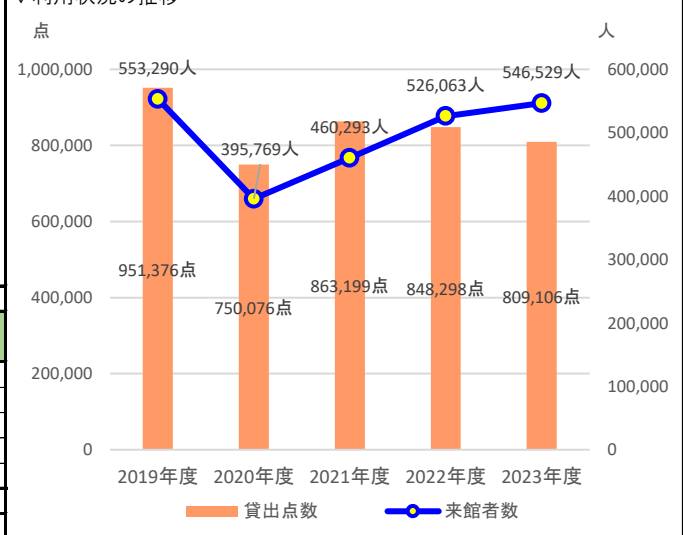
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳							
図書館管理事務	6.2	0.1	0.2	0.1	0.1	6.6	6.4
各館庶務事務	3.9	0.7	3.2	0.8	0.8	8.6	7.4
企画運営事務	8.4	0.6	3.1			12.1	11.3
資料貸出・閲覧業務	5.0	1.3	25.2	1.1	1.1	32.6	31.1
利用援助・普及事業	2.0	0.2	3.5			5.7	6.5
2023年度 特定事業 合計	25.5	2.9	0.0	35.2	2.0	65.6	62.7
2022年度 特定事業 合計	24.8	2.8	0.0	34.4	0.7	62.7	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆新型コロナウイルス感染症の状況に応じて定員見直し等を行った効果もあり、おはなし会は参加者が増え、延べ84回739人の参加がありました。夏休み期間に行った子ども向けクイズ「まちクエキッズ」は85人の参加がありました。中高生向けの「一日図書館員」は延べ4回16人の参加がありました。「本のおたのしみぶくろ」は278袋834冊の貸出がありました。◆子ども映画会の参加者は44人増えて77人、青少年映画会「Yシネマ」は8人増えて41人でした。通常の映画会の参加者は635人増え、全46回2,781人になりました。◆おはなし会ボランティア養成講座(全3回、修了者10人)、図書館ボランティア向け講座(2回24人参加)を開催しました。◆11月に英語多読シンポジウムを開催し、図書館や学校での事例発表とワークショップを行い26人の参加がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、システム更改に伴う人員増等職員構成の変動などにより12,175千円増加しました。
- ◆物件費は、電動式移動棚・制御交換修繕が完了したことなどにより28,453千円減少しました。
- ◆国庫支出金は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増加により1,290千円増加しました。
- ◆都支出金は、子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金の増加などにより443千円増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、必要なサポートを行います。
- ◆電子書籍サービスにつきましては引き続き利用促進に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組みます。◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRIに取り組むとともに、学校との連携を継続し、児童・生徒の読書活動の支援を行います。◆消防設備点検結果を活用し、防火シャッターや排煙口改修工事など修繕を行います。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名		生涯学習部	主管課名		図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称 町田市立さるびあ図書館
	蔵書数	133,109点	132,716点	130,637点	建設年月日 1972年5月22日
	予約・リクエスト数	85,567件	90,640件	85,435件	
	貸出者数	87,674人	88,446人	84,442人	有形固定資産減価償却率 2021年度 2022年度 2023年度 86.6% 73.2% 74.6%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆図書館協議会での審議を踏まえ、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づき効率的・効果的な運行の検討が必要です。
 ◆学校図書館支援貸出について、アンケート調査やヒアリングから、貸出依頼時に選書などに時間がかかり、利用しにくいとの回答があったため、学校図書館支援に関するサービスの改善に努める必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」を構築し、資料の充実を図ります。◆学校図書館支援に関するアンケート調査の結果から、学校図書館支援貸出に関する改善策を検討していきます。 ◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。	
取組状況	○ ◆学校図書館支援貸出が利用しやすいように、テーマ別貸出セットを購入し資料を充実させました。◆学校図書館支援貸出について、教員の活用が進むように利用方法の研修を行いました。◆移動図書館巡回場所見直し基本方針を策定しました。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換会を3回実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	392,000	392,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館2台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	334,077	330,332	310,420		(2024年度)	
来館者数	人	目標	228,000	228,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	131,462	126,860	141,863		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至らず、2022年度と比較して貸出点数は減少しましたが来館者数は増加しました。◆移動図書館2台が37か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆移動図書館の出張運行を、芹ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園など58回出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆学校図書館支援貸出が利用しやすいように、テーマ別貸出セットを購入し資料を充実させ利用の促進を図りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	90,293	93,714	96,633	2,919	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	23,996	26,283	27,182	899		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	6,807	6,800	7,098	298		都支支出金	0	1,456	1,654	198
	維持補修費	0	1,115	20	△ 1,095		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	11	11	11	0
	補助費等	12	20	18	△ 2		その他	153	200	225	25
	減価償却費	2,067	367	1,806	1,439		行政収入 小計(a)	164	1,667	1,890	223
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 122,332	△ 127,213	△ 136,720	△ 9,507
	賞与・退職手当引当金繰入額	6,128	7,381	12,951	5,570		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	122,496	128,880	138,610	9,730		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 122,332	△ 127,213	△ 136,720	△ 9,507
特別費用 (g)		7,269	3,612	7,413	3,801	特別収入 (f)		4,515	0	374	374
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		△ 2,754	△ 3,612	△ 7,039	△ 3,427	当期収支差額 (e)+(h)		△ 125,086	△ 130,825	△ 143,759	△ 12,934

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 46,197千円 常勤職員 40,402千円 再任用職員 9,994千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,611千円 光熱水費 4,853千円 清掃業務外委託料 4,639千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、2,919千円増加。	電子書籍サービス費用が368千円増加。 資料受取サービス業務費用が297千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	電話回線修繕 20千円	子ども・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金 1,654千円
主な増減理由	高圧引込ケーブル更新修繕の完了により、858千円減少。 洗面器給水自動水栓化修繕の完了により、219千円減少。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が198千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	310,420	447	57	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりのコストが57円増加しました。
		2022	330,332	390	23	
		2021	344,077	367	△ 127	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	1,260	110,008	7,722	人件費が増加したことなどにより、単位あたりのコストが7,722円増加しました。
		2022	1,260	102,286	5,067	
		2021	1,260	97,219	△ 7,242	

④貸借対照表

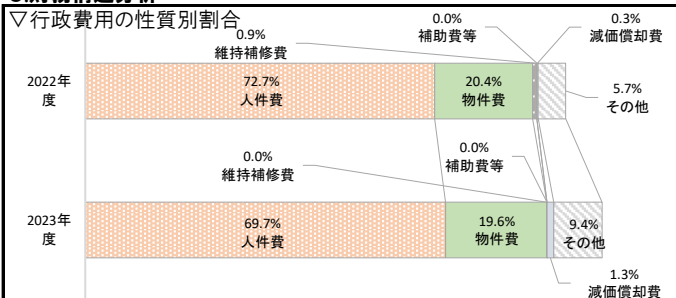
(単位:千円)

勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			6,051	8,890	2,839	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
							賞与引当金			6,051	8,890	2,839	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		117,044	115,238	△ 1,806	その他の流動負債			0	0	0	
		土地		80,530	80,530	0	固定負債			40,860	42,317	1,457	
		建物(取得価額)		130,612	130,612	0	地方債			0	0	0	
		建物減価償却累計額		△ 94,098	△ 95,904	△ 1,806	退職手当引当金			40,860	42,317	1,457	
		工作物(取得価額)		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	負債の部合計			46,911	51,207	4,296	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産			287,704	281,031	△ 6,673	
		有形固定資産		0	0	0							
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
		工作物減価償却累計額		0	0	0							
	建設仮勘定	無形固定資産		0	0	0							
				0	0	0							
その他の固定資産			217,571	217,000	△ 571	純資産の部合計			287,704	281,031	△ 6,673		
資産の部合計				334,615	332,238	△ 2,377	負債及び純資産の部合計		334,615	332,238	△ 2,377		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	さるびあ図書館 130,612千円	図書資産 217,000千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、1,806千円減少。	購入3,920千円、寄贈2,548千円、除籍△7,413千円などにより、図書資産が571千円減少。

5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
図書館管理事務	0.7					0.7	0.6
各館庶務事務	1.0	0.1				1.1	0.8
企画運営事務	0.7			0.3		1.0	1.4
資料貸出・閲覧業務	2.6	1.9		11.1	1.2	16.8	17.0
利用援助・普及事業				1.1		1.1	0.8
2023年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	12.5	1.2	20.7	20.6
2022年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	12.4	1.2	20.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆新型コロナウイルス感染症の状況に応じて読書室の座席を増やしたことなどで、2022年度と比較して来館者数は15,003人増加しました。◆9月の「小山田桜台団地 PLAY DAY!」、10月の「子どもたちに大人気 働く車大集合」に移動図書館のイベント運行を行いました。イベント運行2回の合計は延べ数で来場者数107人、貸出者数14人、貸出数40点、お話し会参加者数83人でした。◆学校図書館支援貸出として、小中学校合わせて62校の登録校のうち23校から依頼を受け、資料2,188点を貸出・配本しました。◆学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」として、「伝統工芸」や「じどうしゃくらべ」などのテーマで合計378点を追加購入しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより2,919千円増加しました。
- ◆物件費は、電子書籍サービス費用や資料受取サービス業務費用などの増加により899千円増加しました。
- ◆維持補修費は、高圧引込ケーブル更新修繕完了などにより、1,095千円減少しました。
- ◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、幅広い世代の利用者等との意見交換が必要となります。◆学校図書館支援貸出について、学校図書館と連携し学校のニーズに合わせて改善に努める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校図書館と連携し、学校図書館支援貸出におけるテーマ別貸出セットの案内を進めていきます。 ◆子どもが本に触れる機会を増やすために、移動図書館の出張運行先の拡大を進めていきます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。

2023年度 事業別行政評価シート

2023年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立鶴川図書館
	蔵書数	49,906点	44,946点	25,488点	建設年月日	1972年2月15日
	予約・リクエスト件数	47,729件	43,835件	39,001件		2021年度 2022年度 2023年度
	貸出者数	51,572人	49,237人	40,101人	有形固定資産減価償却率	- - -

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆説明会で示した図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。
- ◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に積極的に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆説明会で示した図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。 ◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に積極的に取り組む必要があります。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
取組状況	○	◆図書コミュニティ施設の運営団体として「一般社団法人つるかかわ図書コミュニティ施設運営協議会」を11月に設立しました。 ◆鶴川団地商店街の秋祭りに出店し、テーマである「未来をつくるエコロジー」に関連した企画を商店街と連携し実施しました。 ◆コミュニティ機能を強化するため、施設の改修工事を行いコミュニティスペースを設置しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	162,281	150,897	119,525		(2024年度)	
来館者数	人	目標	174,000	174,000	174,000	174,000	174,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	68,995	69,794	75,574		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆2/1~3/11まで実施した改修工事のための休館により、2022年度と比較して貸出点数は減少しましたが、来館者数は5,780人増加しました。
- ◆観光まちづくり課が実施した地域回遊イベント「まちだ謎解きゲーム2」のポイントとして場所を提供することや、URのコミュニティビルダーとの共催による「だんちでえほん」を開催することで来館者の増加につなげました。
- ◆図書コミュニティ施設への転換に向けたイベントを2回開催し、約900人の参加がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	42,482	42,856	39,957	△ 2,899	地方税	0	0	0	0
物件費	12,594	13,561	13,430	△ 131	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,761	1,983	2,166	183	都支支出金	0	813	693	△ 120
維持補修費	0	1,496	0	△ 1,496	分担金及負担金	0	0	0	0
行政費用	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	163	167	164	△ 3	その他	25	39	34	△ 5
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	25	852	727	△ 125
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 60,591	△ 60,884	△ 56,884	4,000
賞与・退職手当引当金繰入額	5,377	3,656	4,060	404	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	60,616	61,736	57,611	△ 4,125	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 60,591	△ 60,884	△ 56,884	4,000
特別費用(g)	1,740	7,878	24,972	17,094	特別収入(f)	0	0	3,897	3,897
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 1,740	△ 7,878	△ 21,075	△ 13,197	当期収支差額(e)+(h)	△ 62,331	△ 68,762	△ 77,959	△ 9,197

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 23,135千円 常勤職員 16,805千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 4,482千円 図書館情報システムサービス使用料 2,275千円 光熱水費 930千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、2,899千円減少。	光熱水費が365千円減少。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	維持補修費 0千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 693千円
主な増減理由	空調機器更新修繕が完了したことにより、1,300千円減少。 換気扇交換修繕が完了したことにより、119千円減少。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が120千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	119,525	482	73	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが73円増加しました。
		2022	150,897	409	35	
		2021	162,281	374	△ 117	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	260	221,581	△ 15,865	人件費や維持補修費が減少したことなどにより、単位あたりコストが15,865円減少しました。
		2022	260	237,446	4,308	
		2021	260	233,138	△ 31,116	

④貸借対照表

(単位:千円)

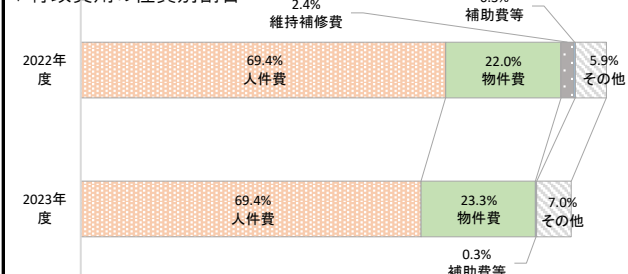
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				3,162	4,060	898	
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0	
								賞与引当金			3,162	4,060	898	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	固定負債	その他の流動負債			0	0	0
		土地			0	0	0					22,710	17,723	△ 4,987
		建物(取得価額)			0	0	0		地方債			0	0	0
		建物減価償却累計額			0	0	0		退職手当引当金			22,710	17,723	△ 4,987
		工作物(取得価額)			0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0		負債の部合計			25,872	21,783	△ 4,089
		無形固定資産			0	0	0		純資産			28,736	9,325	△ 19,411
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0							
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
	無形固定資産			0	0	0								
	建設仮勘定			0	0	0								
	その他の固定資産			54,608	31,108	△ 23,500	純資産の部合計			28,736	9,325	△ 19,411		
	資産の部合計			54,608	31,108	△ 23,500	負債及び純資産の部合計			54,608	31,108	△ 23,500		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 31,108千円		特になし
主な増減理由	購入1,197千円、寄贈275千円、除籍△24,920千円などにより、図書資産が23,500千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
図書館管理事務	0.1			0.2		0.3	0.4
各館庶務事務	1.0			0.4		1.4	1.5
企画運営事務	0.4			0.3		0.7	1.0
資料貸出・閲覧業務	0.7			4.6	0.5	5.8	5.3
利用援助・普及事業				0.8		0.8	1.0
2023年度 特定事業 合計	2.2	0.0	0.0	6.3	0.5	9.0	9.2
2022年度 特定事業 合計	2.9	0.0	0.0	5.8	0.5	9.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆館内イベントのうち、児童対象の夏休みイベント「にんきものをさがせ!」は153人の参加がありました。
- ◆UR都市機構や鶴川団地のコミュニティビルダーとの共催により「だんちでえほん」を開催(7月・12月)し、計22人の参加がありました。
- ◆鶴川団地商店街の秋祭りに出店し「エコ」をテーマにした「推し本展」やゴミ分別ゲーム、図書コミュニティ施設でやってみたいことを意見交換するイベントを実施し、526人の参加がありました。また、3月には「ともに語ろう! 新たなコミュニティ まずはおしゃべりから始めよう」と題して、トークセッションなど運営団体が企画したイベントをコミュニティスペースのお披露目も含めて実施し、373人の参加がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより2,899千円減少しました。
- ◆維持補修費は、施設の緊急修繕がなかったことにより1,496千円減少しました。
- ◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆図書コミュニティ施設への転換に向けて運営団体への支援が必要です。
- ◆地域のコミュニティづくりを進めるため、鶴川団地商店街のイベント等への積極的な参加や、コミュニティスペースを活用した読み聞かせなどの実施、地域の方々との会話のきっかけづくりなどに取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2025年度当初の図書コミュニティ施設のオープンに向けて、運営団体の支援を進めます。 ◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に取り組む必要があり。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。

2023年度 事業別行政評価シート

2023年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。						
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立金森図書館	
	蔵書数	126,581点	129,283点	130,379点	建設年月日	2000年7月4日	
	予約・リクエスト件数	145,282件	145,456件	154,259件		2021年度	2022年度
	貸出者数	160,877人	161,709人	161,651人	有形固定資産減価償却率	-	-

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
 ◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆多くの方に利用していただけるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していく必要があります。◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆シニア向け事業をはじめとする魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けた取り組みを行います。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む金森図書館を安心・安全に利用していただくために、施設や設備の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。	
取組状況	○	◆市民協働推進課と連携した特集展示「性の多様性への意識啓発」、ごみ収集課と連携した特集展示「ごみ収集車の火災を防ごう」をそれぞれ約1か月間行い、利用の促進を図りました。◆夏休み児童向けイベント、シニア向け特集3回など、年間15件に及び魅力的なイベントを実施し、2022年度と比較して来館者数が9,733人の増加となりました。◆図書館併設の駐車場にアーチ形車止めを設置し、安全管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	722,000	722,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	584,238	587,110	588,727		(2024年度)	
来館者数	人	目標	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	179,945	229,659	239,392		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至りませんでしたが、2022年度と比較して貸出点数は1,617点の増加、来館者数は9,733人の増加となりました。◆夏休みイベントとして、市内在住の絵本作家中垣たかさんと一緒にオリジナル妖怪を描くワークショップを出版社と共催で開催し、18人に参加いただきました。また、定期的なおはなし会に加え、こわいおはなし会などを実施し、2022年度おはなし会と比較して105人増加となる555人が参加しました。◆シニア向け特集を3回実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	68,411	65,189	72,627	7,438	地方税	0	0	0	0	
	物件費	31,014	32,040	34,203	2,163	国庫支出金	0	0	0	0	
	うち委託料	7,543	7,447	8,727	1,280	都支支出金	0	594	989	395	
	維持補修費	120	1,278	721	△ 557	分担金及負担金	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	
	補助費等	7	8	11	3	その他	178	238	272	34	
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	178	832	1,261	429	
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 105,101	△ 101,520	△ 123,302	△ 21,782	
	賞与・退職手当引当金繰入額	5,727	3,837	17,001	13,164	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	
	行政費用 小計 (b)	105,279	102,352	124,563	22,211	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 105,101	△ 101,520	△ 123,302	△ 21,782	
特別費用 (g)	5,587	2,354	5,984	3,630	特別収入 (f)	37	5,715	359	△ 5,356		
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 5,550	3,361	△ 5,625	△ 8,986	当期収支差額 (e)+(h)	△ 110,651	△ 98,159	△ 128,927	△ 30,768		

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 44,243千円 常勤職員 23,362千円 再任用職員 4,997千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,824千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 清掃業務委託料 2,854千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、7,438千円増加。	駐車場事故防止対策を実施したことにより、委託料が995千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	照明器具修繕 343千円 空調機修繕 169千円 雨漏りシーリング打ち修繕 75千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 989千円
主な増減理由	高圧負荷開閉器(PAS)交換修繕の完了により、990千円減少。 照明器具の修繕により、343千円増加。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が395千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	588,727	212	38	人件費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが38円増加しました。
		2022	587,110	174	△ 6	
		2021	584,238	180	△ 47	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	1,500	83,042	14,807	人件費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが14,807円増加しました。
		2022	1,500	68,235	△ 1,951	
		2021	1,500	70,186	△ 3,291	

④貸借対照表

(単位:千円)

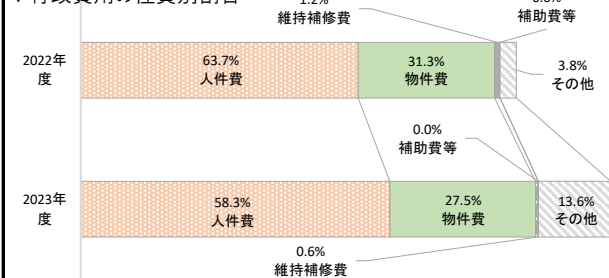
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			3,659	6,864	3,205	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金			3,659	6,864	3,205
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			16,737	25,318	8,581
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			16,737	25,318	8,581
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			20,396	32,182	11,786	
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0	純資産			156,038	145,072	△ 10,966
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
	建設仮勘定			0	0	0							
その他の固定資産			176,434	177,254	820	純資産の部合計			156,038	145,072	△ 10,966		
資産の部合計			176,434	177,254	820	負債及び純資産の部合計			176,434	177,254	820		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 177,254千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,273千円、寄贈3,172千円、除籍△5,984千円などにより、図書資産が820千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



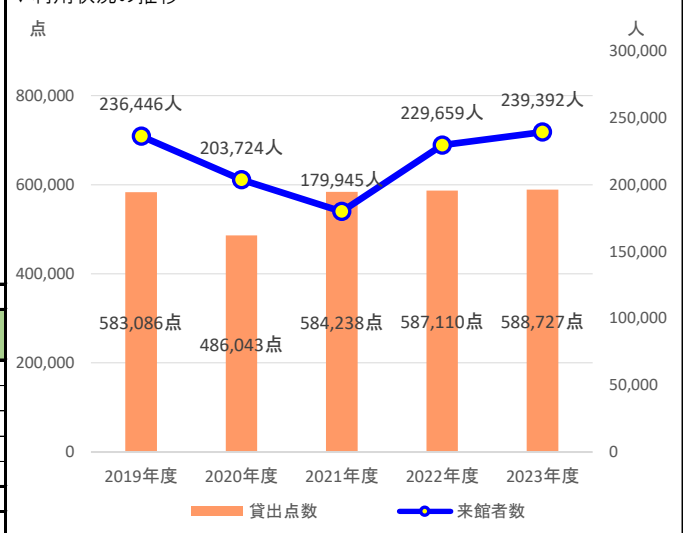
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳							
図書館管理事務	0.2			0.2		0.4	0.4
各館庶務事務	1.2	0.3		0.2		1.7	1.7
企画運営事務	0.2	0.1		0.4		0.7	0.9
資料貸出・閲覧事務	1.3	0.6		10.0	1.9	13.8	13.3
利用援助・普及事業	0.1			0.8		0.9	0.7
2023年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	11.6	1.9	17.5	17.0
2022年度 特定事業 合計	2.0	1.0	1.0	11.1	1.9	17.0	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆毎週開催している定例おはなし会、市内在住絵本作家中垣ゆたかさんとのワークショップ「自分だけのオリジナル妖怪をかいてみよう!」など、年間15件に及ぶ魅力的なイベントを実施することで、2022年度と比較して貸出点数は1,617点、来館者数は9,733人増加しました。
- ◆通年イベントとして「妖怪図書館」を実施しました。水木プロダクションに許諾をとりゲゲゲの鬼太郎人気投票を行うなど外部との連携も行い、1年間を通して一貫したイベントを行うことで利用の促進を図りました。
- ◆図書館併設の駐車場にアーチ形車止めを設置することにより、利用者の安心・安全の向上を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより7,438千円増加しました。
- ◆物件費は、図書館併設の駐車場へアーチ形車止めを設置するための駐車場事故防止対策業務委託などの増加により2,163千円増加しました。
- ◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。
- ◆来館者数は増加傾向にありますが、引き続き、児童向け、シニア向けなどの魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けて取り組む必要があります。
- ◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆児童向けイベント、シニア向けイベントなど、幅広い世代に楽しんでもらえるような魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けた取組を行います。 ◆高圧ケーブル更新修繕を行います。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む金森図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立忠生図書館
	蔵書数	102,542点	105,195点	108,257点	建設年月日	2015年2月27日
	予約・リクエスト件数	68,299件	66,950件	62,465件		
	貸出者数	103,407人	103,775人	100,443人	有形固定資産減価償却率	2021年度 82.2% 2022年度 92.9% 2023年度 93.9%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆来館者数は2022年度は2021年度と比較して9,841人増加しましたが、2018年度のピークからは下回っている状況です。また、貸出点数はやや減少傾向であるため、さらなる図書館サービスのPRが必要です。
- ◆児童・生徒向けの事業の充実とともに、シニア世代の利用を促進する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	◆町田市立図書館のホームページやX(旧Twitter)を活用し、イベントや特集などタイムリーな情報を発信し図書館サービスのPRを行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
	◆忠生地域にある子育て相談センターや子どもセンターただON等関係部署と連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。	◆開館後7年が経過し、軽微ではあるが施設面で修繕が必要な場面が増えてきています。安心して忠生図書館を利用してもらうため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。	
	◆図書館利用者の促進を図るため、シニア世代向けの特集を行います。		
取組状況	○	◆町田市立図書館のホームページやX(旧Twitter)に忠生図書館の特集の取組について情報を発信し図書館サービスのPRを行いました。	
		◆忠生市民センターを会場とした子育て相談センター主催の「出張子育てひろば」に参加し、ミニおはなし会と図書館PRを実施しました。	
		◆シニア世代向けに様々なジャンルの本を紹介する特集を2回実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	568,000	568,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	438,693	438,283	416,669		(2024年度)	
来館者数	人	目標	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	151,719	161,560	159,880		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆忠生市民センターまつりや乳幼児健診、子育て広場で図書館PRを実施しましたが、貸出点数、来館者数は目標に至りませんでした。◆図書館利用促進のため児童向けイベントを6回実施し、参加者は2022年度と比較して178人増加し2,576人でした。◆特集を117回実施し、ホームページとX(旧Twitter)に取組を掲載しました。◆関係部署4課と共催事業を行い、地区街づくり課・ごみ収集課は特集、子どもセンターただONはイベント、子育て相談センターはミニおはなし会を実施しました。◆小学校3校へブックトークやおはなし会の出張、図書館見学を受入れました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	62,255	61,971	63,540	1,569	地方税	0	0	0
	物件費	31,864	33,296	33,592	296	国庫支出金	0	0	0
	うち委託料	11,905	12,016	12,369	353	都支支出金	0	570	989
	維持補修費	0	0	127	127	分担金及負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
	補助費等	7	8	11	3	その他	72	99	89
	減価償却費	9,682	9,682	931	△ 8,751	行政収入 小計(a)	72	669	1,078
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 109,401	△ 107,967	△ 114,643
	賞与・退職手当引当金繰入額	5,665	3,679	17,520	13,841	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用 小計(b)	109,473	108,636	115,721	7,085	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 109,401	△ 107,967	△ 114,643
特別費用(g)	1,895	719	761	42	特別収入(f)	836	7,204	34	△ 7,170
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 1,059	6,485	△ 727	△ 7,212	当期収支差額(e)+(h)	△ 110,460	△ 101,482	△ 115,370	△ 13,888

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 40,073千円 常勤職員 23,442千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,824千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,569千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、1,569千円増加。	電子書籍サービス費用が486千円増加。 資料受取サービス業務費用が422千円増加。 光熱水費が502千円減少。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	コンセント修繕 127千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 989千円
主な増減理由	コンセント修繕により、127千円増加。	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金が419千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	416,669	278	30	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが30円増加しました。
		2022	438,283	248	△ 2	
		2021	438,693	250	△ 48	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	1,266	91,407	5,597	人件費や物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが5,597円増加しました。
		2022	1,266	85,810	△ 662	
		2021	1,266	86,472	△ 2,135	

④貸借対照表

(単位:千円)

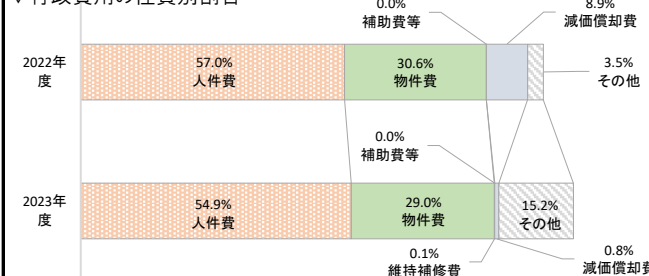
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			3,514	6,579	3,065	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	0	賞与引当金			3,514	6,579	3,065	
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		0	0	0	固定負債			15,934	25,318	9,384	
		建物減価償却累計額		0	0	0	地方債			0	0	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			15,934	25,318	9,384	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			19,448	31,897	12,449	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			137,533	127,701	△ 9,832	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0	0							
		無形固定資産		0	0	0							
その他の固定資産				156,981	159,598	2,617	純資産の部合計			137,533	127,701	△ 9,832	
資産の部合計				156,981	159,598	2,617	負債及び純資産の部合計			156,981	159,598	2,617	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産			
決算額の主な内訳	図書資産 154,081千円 忠生図書館書架等備品 5,517千円		特になし	特になし
主な増減理由	図書資産は、購入3,300千円、寄贈975千円、除籍△761千円などにより、3,548千円増加。書架等備品は減価償却により、931千円減少。			

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



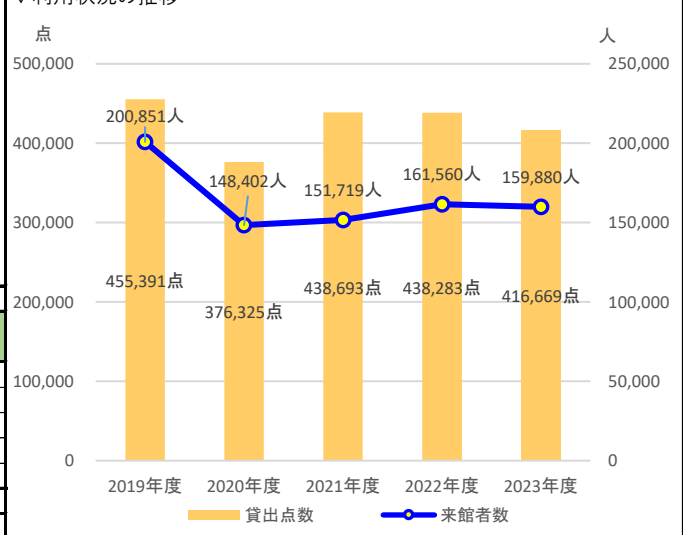
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
						合計	合計
図書館管理事務	0.3					0.3	0.4
各館庶務事務	1.4					1.4	2.9
企画運営事務	0.3			0.6		0.9	1.3
資料貸出・閲覧業務	0.9			8.3	1.5	10.7	11.0
利用援助・普及事業	0.1			1.7		1.8	1.6
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	10.6	1.5	15.1	17.2
2022年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	11.7	1.5	17.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆「えいごのまちだ」を推進するため英語による「英語絵本おはなし会」を実施し18人の参加がありました。◆複数所蔵している大型絵本について、中央図書館3冊と金森図書館2冊の所蔵換えを行い図書館資料の有効活用を図りました。◆忠生市民センターまつりに参加し、図書館PRと電子書籍のPRを実施しました。また忠生図書館の多目的室を利用し電子書籍講座を実施し11人の参加がありました。◆幅広いジャンルの資料を紹介する忠生図書の特集コーナーは、工夫を凝らした展示と種類が多く来館者に好評です。2023年度は児童46回、YA10回、一般はシニア特集2回を含め61回、合計117回実施しました。◆しげんの国保育園の図書館見学を新規に受入れ、同時におはなし会も実施し6日間で97人の来館がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより1,569千円増加しました。
◆利用者用の全ての椅子の脚にテニスボールを付け、利用時の摩擦音解消と床の劣化防止対策を費用をかけずに整備することができました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆2023年度は貸出点数、来館者数とも2022年度と比較して減少している状況のため、さらなる忠生図書館の魅力あるイベントや特集を企画し、PRが必要です。
◆児童・生徒向けの事業は充実しており、シニア世代の利用や来館を促進する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市立図書館のホームページやX(旧Twitter)を活用し、イベントや特集などタイムリーな情報を発信し図書館サービスのPRを行います。 ◆忠生地域にある子育て相談センターや子どもセンターただON等関係部署と連携し、図書館の魅力をアピールしていきます。 ◆図書館利用者の促進を図るため、シニア世代向けの特集を行います。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆開館後8年が経過し、軽微ではあるが施設面で修繕が必要な箇所が増えてきています。安心して忠生図書館を利用していただくため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。

2023年度 事業別行政評価シート

2023年度 事業別行政評価シート			部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	木曽山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型	

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立木曽山崎図書館
	蔵書数	53,621点	54,631点	54,382点	建設年月日	1976年3月25日
	予約・リクエスト件数	42,873件	38,602件	40,057件		
	貸出者数	65,813人	62,412人	58,593人	有形固定資産減価償却率	2021年度 59.9% 2022年度 62.7% 2023年度 65.5%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用したことがない方々及び山崎地区内にお住いの既に図書館を利用しているシニア世代の方々にも引き続きご利用いただけるように、魅力的な書架づくりに取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用いただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆子ども達の本に対する興味を育成し、読書をする習慣を身につけるため、近隣の小学校等と連携し、おはなし会や図書館見学に取り組めます。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
◆他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりに取り組み、来館者数の増加を目指します。		◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用いただけるように施設の維持管理を行います。	
取組状況	○	◆2023年度から七国山小学校での出張おはなし会を再開するとともに、七国山小学校、本町田小学校及び町田の丘学園での図書館見学の受け入れを行いました。◆シニア世代の方に向けた体調管理の本、古典的な文学作品、歌謡曲の本などを他館から取り寄せて、魅力的な書架づくりに取り組みました。◆利用者に安心して利用いただけるように必要な修繕(湧水ポンプ修繕、空調保温修繕等)を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	206,787	192,418	181,588		(2024年度)	
来館者数	人	目標	197,000	197,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	165,898	163,306	169,078		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆貸出点数及び来館者数は目標値には至りませんでしたが、来館者数は2022年度と比較して増加しました。◆毎月館内にて特集コーナーを設置し、図書館の利用促進を図りました(68回)。◆七国山小学校にて対面での出張おはなし会を行い、536人が参加しました。◆七国山小学校、本町田小学校及び町田の丘学園での図書館見学の受け入れを行い、160人が参加しました。◆バンザイサンタの折り紙(174個)の掲示、自動販売機型のおすすめ本の紹介(278個)など各種イベントを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	40,898	41,020	42,117	1,097	行政収入	地方税	0	0	0	0						
	物件費	12,768	13,542	13,558	16		国庫支出金	0	0	0	0						
	うち委託料	2,197	2,221	2,400	179		都支支出金	0	570	664	94						
	維持補修費	384	329	462	133		分担金及負担金	0	0	0	0						
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0						
	補助費等	5	8	7	△ 1		その他	25	53	56	3						
	減価償却費	3,177	3,177	3,177	0		行政収入 小計(a)	25	623	720	97						
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 61,386	△ 60,297	△ 64,366	△ 4,069						
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,179	2,844	5,765	2,921		金融収支差額 (d)	0	0	0	0						
	行政費用 小計 (b)	61,411	60,920	65,086	4,166		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 61,386	△ 60,297	△ 64,366	△ 4,069						
特別費用 (g)	2,869	1,226	3,129	1,903	特別収入 (f)	0	0	0	0								
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 2,869	△ 1,226	△ 3,129	△ 1,903	当期収支差額 (e)+(h)	△ 64,255	△ 61,523	△ 67,495	△ 5,972								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 21,103千円 常勤職員 16,001千円 再任用職員 4,997千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,074千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 清掃業務委託料 1,151千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、1,097千円増加。	電子書籍サービス費用が161千円増加。 資料受取サービス業務費用が198千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	湧水ポンプ修繕 220千円 空調保温修繕 99千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 664千円
主な増減理由	湧水ポンプ修繕により、220千円増加。 非常照明設備修繕の完了により、66千円減少。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が94千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	181,588	358	41	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが41円増加しました。
		2022	192,418	317	20	
		2021	206,787	297	△57	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	321	202,760	12,978	人件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが12,978円増加しました。
		2022	321	189,782	△1,530	
		2021	321	191,312	4,661	

④貸借対照表

(単位:千円)

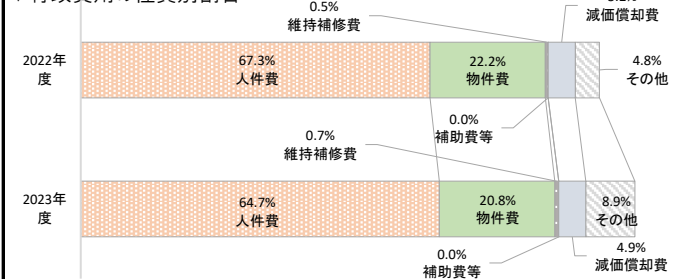
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				2,624	3,901	1,277	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		42,272	39,095	△ 3,177	賞与引当金			2,624	3,901	1,277	1,277	
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	0	
		建物(取得価額)		111,462	111,462	0	固定負債			16,180	16,999	819	819	
		建物減価償却累計額		△ 69,190	△ 72,367	△ 3,177	地方債			0	0	0	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			16,180	16,999	819	819	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計				18,804	20,900	2,096	2,096
		有形固定資産		0	0	0	純資産			96,364	90,657	△ 5,707	△ 5,707	
		土地		0	0	0								
		工作物(取得価額)		0	0	0								
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0	0								
		無形固定資産		0	0	0								
建設仮勘定			0	0	0									
その他の固定資産			72,896	72,462	△ 434	純資産の部合計			96,364	90,657	△ 5,707	△ 5,707		
資産の部合計				115,168	111,557	△ 3,611	負債及び純資産の部合計				115,168	111,557	△ 3,611	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 72,462千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,177千円減少。	購入1,613千円、寄贈1,082千円、除籍△3,093千円などにより、434千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



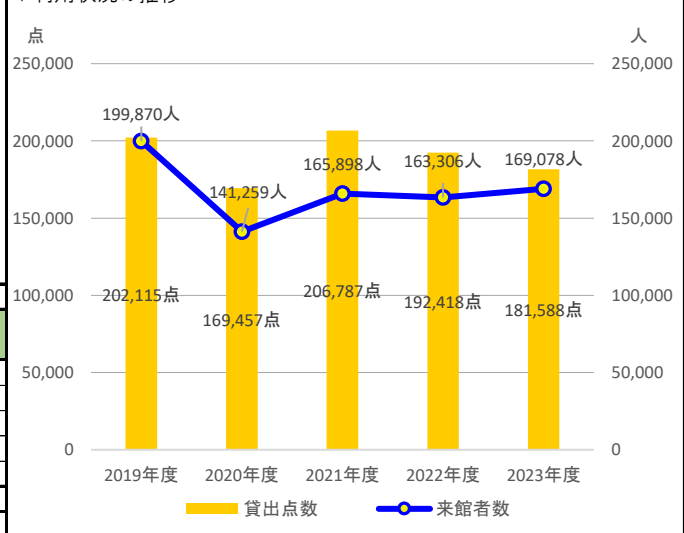
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
図書館管理事務	0.2	0.1				0.3	0.2
各館庶務事務	0.7	0.2		0.2		1.1	1.3
企画運営事務	0.7	0.1		0.2		1.0	1.4
資料貸出・閲覧業務	0.4	0.6		4.2	0.5	5.7	5.2
利用援助・普及事業				1.1		1.1	1.2
2023年度 特定事業 合計	2.0	1.0	0.0	5.7	0.5	9.2	9.3
2022年度 特定事業 合計	2.0	1.0	0.0	5.8	0.5	9.3	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆七国山小学校のボランティアコーディネーターと連携して、2023年度から対面での出張おはなし会を再開し、536人が参加しました。また、七国山小学校、本町田小学校及び町田の丘学園の図書館見学の受け入れを行い、160人が参加しました。
- ◆ヨガ・体操・栄養学・病気の体調管理全般に関する本、シニア世代の方が若い時代に読んだことのある文学作品、歌謡曲の本などを他館から取り寄せ、魅力的な書架づくりに取り組みました。
- ◆湧水ポンプ修繕、空調保温修繕などを行い、施設の維持管理及び利用環境の改善を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより1,097千円増加しました。
- ◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用したことがない方々及び既に図書館を利用しているシニア世代の方々にもご利用いただけるように、魅力的な書架づくりを継続していく必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆近隣の小学校等と連携し、出張おはなし会や図書館見学に取り組みます。 ◆来館者数の増加に向けた取り組みとして、他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりを継続していきます。 ◆他部署と連携した特集展示を行うことにより、利用促進を図ります。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。

2023年度 事業別行政評価シート

2023年度 事業別行政評価シート				部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。						
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立堺図書館	
	蔵書数	68,417点	69,449点	69,801点	建設年月日	1983年9月25日	
	予約・リクエスト件数	36,287件	34,253件	33,193件		2021年度	2022年度 2023年度
	貸出者数	40,279人	40,493人	39,184人	有形固定資産減価償却率	-	-

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。
- ◆図書館協議会での審議を踏まえ、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づき効率的・効果的な運行の検討が必要です。
- ◆老朽化に伴い、修繕の必要性があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆2023年は堺図書館開館40周年であるため、利用促進を目指したイベントを行います。 ◆「堺地域」にある図書館として、地域に密着した取組を継続します。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。◆堺市民センターと協力して適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。	
取組状況	○	◆堺図書館40周年記念イベント(移動図書館めぐりえ配布・展示、いきものをさがせ！、おはなし会、八木重吉特集、八王子空襲特集)を開催し、306人の参加がありました。◆移動図書館巡回場所見直し基本方針を策定しました。◆保育園や地域で企画した絵画や写真の展示を合計11回行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	257,000	257,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館1台を含む、電子書籍は含まない)
		実績	184,611	183,503	174,205		(2024年度)	
来館者数	人	目標	74,000	74,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	62,697	61,569	60,697		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆複合施設の利点を生かし堺市民センター祭りやイベントで図書館PRを実施しましたが、貸出点数、来館者数は目標に至りませんでした。◆おはなし会(33回参加者350人)、図書館見学(1件64人)、イベント(夏休み自由研究用セット本貸出、堺図書館40周年記念イベント)等を行いました。◆子どもセンターばお分館WAAAOにて出張おはなし会(2回参加者35人)、大人のためのお話し会(参加者8人)も実施しました。◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	56,011	54,064	55,446	1,382	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	物件費	12,988	14,337	14,625	288	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	うち委託料	3,257	3,429	3,620	191	都支支出金	0	898	1,032	134							
	維持補修費	43	338	490	152	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	補助費等	9	12	11	△ 1	その他	27	46	50	4							
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	27	944	1,082	138							
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 78,278	△ 71,860	△ 78,050	△ 6,190							
	賞与・退職手当引当金繰入額	9,254	4,053	8,560	4,507	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行政費用 小計 (b)	78,305	72,804	79,132	6,328	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 78,278	△ 71,860	△ 78,050	△ 6,190							
特別費用 (g)	3,644	1,036	1,957	921	特別収入 (f)	0	5,123	291	4,832								
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,644	4,087	△ 1,666	△ 5,753	当期収支差額 (e)+(h)	△ 81,922	△ 67,773	△ 79,716	△ 11,943								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度業務職員 30,351千円 常勤職員 25,070千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,074千円 堺市民センター物件費 3,864千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、1,382千円増加。	電子書籍サービス費用が239千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	堺市民センター維持補修費 490千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 1,032千円
主な増減理由	堺市民センター維持補修費(堺市民センター正面玄関前外構改修工事負担分など)により、152千円増加。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が134千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	174,205	454	57	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが57円増加しました。
		2022	183,503	397	△27	
		2021	184,611	424	△93	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	430	184,028	14,716	人件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが14,716円増加しました。
		2022	430	169,312	△12,793	
		2021	430	182,105	7,747	

④貸借対照表

(単位:千円)

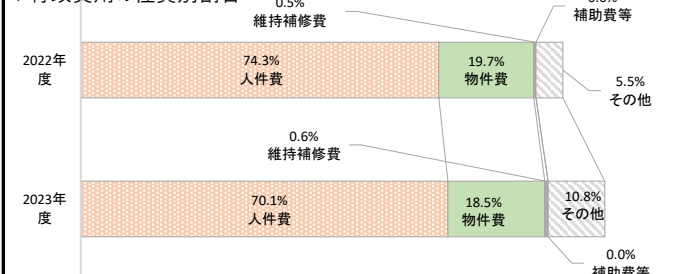
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			3,870	5,834	1,964		
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0		
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0		
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	賞与引当金			3,870	5,834	1,964		
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			25,301	26,403	1,102	
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0	
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			25,301	26,403	1,102	
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			29,171	32,237	3,066	
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0	純資産			97,994	95,562	△ 2,432	
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
	無形固定資産			0	0	0								
	建設仮勘定			0	0	0								
	その他の固定資産				127,165	127,799	634	純資産の部合計				97,994	95,562	△ 2,432
	資産の部合計				127,165	127,799	634	負債及び純資産の部合計				127,165	127,799	634

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 127,799千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入1,584千円、寄贈716千円、除籍△1,957千円などにより、図書資産が634千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



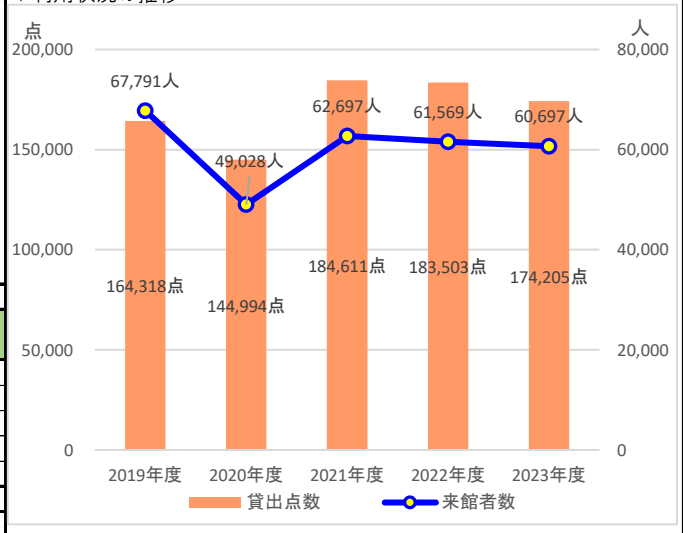
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.3
各館庶務事務	0.7					0.7	0.9
企画運営事務	0.6			0.5		1.1	1.1
資料貸出・閲覧業務	1.4			7.4		8.8	8.6
利用援助・普及事業	0.1			0.6		0.7	0.8
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	8.6	0.0	11.6	11.7
2022年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	8.7	0.0	11.7	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆関連部署との共催事業として、観光まちづくり課と連携して「町田相原展 in 町田モディ店」で堺図書館40周年記念イベントのPRを行ったことなどにより、イベントには306人の参加がありました。◆いきいき総務課と「介護の仕事」特集を、障がい福祉課と「障がいに関する本」特集を行いました。◆移動図書館では、高齢者支援課と連携した「D-books」特集を、障がい福祉課と「障がいに関する本」特集を行いました。◆地域で活動している5つの団体と個人5人と連携し、展示会を11回行うことができました。◆堺市民センターまつりに参加し、雑誌の付録、リサイクル本の配布、電子書籍PRを行いました。◆移動図書館が22か所のサービスステーションへ巡回を行い、35,704冊の貸出を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより1,382千円増加しました。
◆事業に関わる人員は、ほぼ変更ありませんでした。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。
◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆堺市民センターの工事中も、一定のサービスが提供できるよう取り組みます。 ◆地域と連携して、堺市民センター祭りの参加、展示会を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆適切な修繕などを行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業
事業類型	2:施設運営型		

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。					
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館
	蔵書数	111,138点	113,398点	115,339点	建設年月日	2012年8月31日
	予約・リクエスト件数	110,548件	110,822件	117,957件		
	貸出者数	142,583人	149,426人	147,583人	有形固定資産減価償却率	- - -

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査等のモニタリングに取り組む必要があります。
- ◆鶴川駅前図書館の利用状況の向上に取り組みながらも、町田市立図書館全体の利用状況を向上させるような、民間事業者ならではの新しい図書館サービスを導入する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	○	◆町田市立図書館全体の利用向上に向けて、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。
		◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。	◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。
◆利用者サービス向上策として、開館日・開館時間の拡大や、Wi-Fi環境の提供、本の要約を読める「flier」の提供などを継続して実施しました。		◆「図書館でウォーリーをさがせ！」やオリジナルキャラクター1周年事業など民間事業者の特色を活かしたイベントを実施しました。	
◆管理運営状況のモニタリングの実施を通じて、直営時と変わらないサービス水準による運営をしました。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	558,000	558,000	494,928	504,926	525,530	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	436,465	439,047	429,263		(2026年度)	
来館者数	人	目標	336,000	336,000	339,752	349,647	370,310	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	265,508	350,194	353,399		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆貸出点数は目標値には至りませんでしたが、来館者数は目標値を達成し2022年度と比較して3,205人増加しました。
- ◆新たに「Dフレンズ町田」や「和光大学山口ゼミ」、「町田インドネシア友好協会」などとの連携展示を実施しました。また、「コラボ・フェス」と題して、10月にはF0町田ゼルビアと、3月にはこれまで連携した団体とのコラボイベントを実施し、約320人の参加がありました。
- ◆2023年5月から、久美堂本町田店で予約本受渡しサービスを開始しました。
- ◆11月に実施した利用者アンケートでは総合満足度が約95.5%であり、高い満足度を維持しています。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	77,338	3,763	2,195	△ 1,568	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	物件費	45,056	127,879	129,219	1,340	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	うち委託料	24,212	110,613	112,041	1,428	都支支出金	0	97	85	△ 12							
	維持補修費	500	0	429	429	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	補助費等	9	56	56	0	その他	184	169	169	0							
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	184	266	254	△ 12							
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 130,449	△ 131,700	△ 131,864	△ 164							
	賞与・退職手当引当金繰入額	7,730	268	219	△ 49	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行政費用 小計 (b)	130,633	131,966	132,118	152	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 130,449	△ 131,700	△ 131,864	△ 164							
特別費用 (g)	3,221	1,164	2,163	999	特別収入 (f)	334	29,382	717	△ 28,665								
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 2,887	28,218	△ 1,446	△ 29,664	当期収支差額 (e)+(h)	△ 133,336	△ 103,482	△ 133,310	△ 29,828								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 2,193千円 など	鶴川駅前図書館指定管理委託料 110,571千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,824千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	職員構成の変動により、1,568千円減少。	指定管理委託料が1,120千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	換気設備修繕費 429千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金 85千円
主な増減理由	換気設備の修繕により、429千円増加。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金が12千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2023	429,263	308	7	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが7円増加しました。
		2022	439,047	301	2	
		2021	436,465	299	△ 45	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	1,344	98,302	113	物件費が増加したことなどにより、単位あたりコストが113円増加しました。
		2022	1,344	98,189	992	
		2021	1,344	97,197	△ 247	

④貸借対照表

(単位:千円)

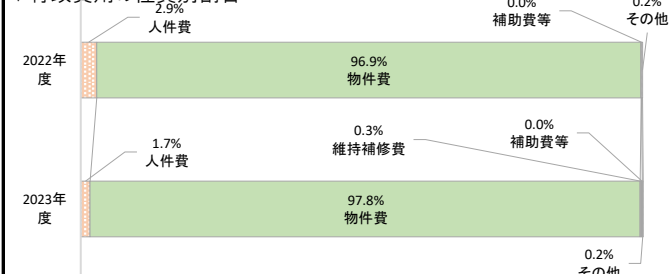
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				2,248	219	△ 2,029	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金				0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債				0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	賞与引当金				2,248	219	△ 2,029	
		土地			0	0	0	その他の流動負債				0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債				2,778	2,170	△ 608
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債				0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金				2,778	2,170	△ 608
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債				0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	負債の部合計				5,026	2,389	△ 2,637
		有形固定資産			0	0	0	純資産				149,953	155,010	5,057
		土地			0	0	0							
		工作物(取得価額)			0	0	0							
		工作物減価償却累計額			0	0	0							
	建設仮勘定			0	0	0								
	その他の固定資産				154,979	157,399	2,420	純資産の部合計				149,953	155,010	5,057
資産の部合計				154,979	157,399	2,420	負債及び純資産の部合計				154,979	157,399	2,420	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 157,399千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,248千円、寄贈1,092千円、除籍△2,163千円などにより、図書資産が2,420千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



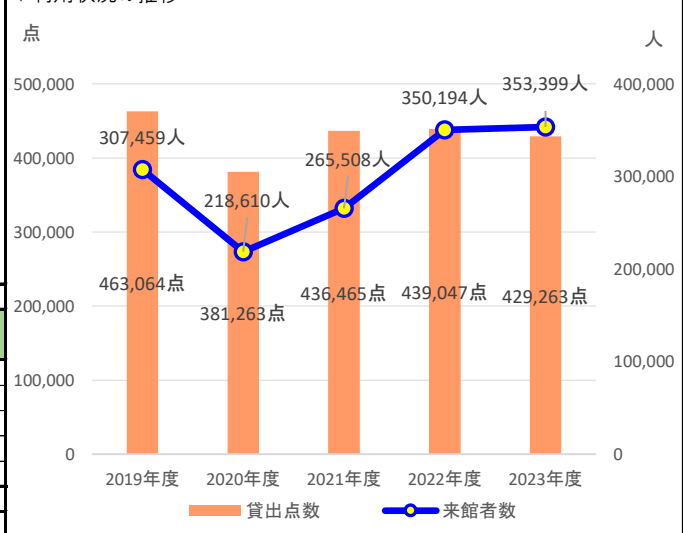
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023	2022
						合計	合計
内訳							
図書館管理事務						0.0	0.0
各館庶務事務						0.0	0.0
企画運営事務	0.3					0.3	0.5
資料貸出・閲覧業務						0.0	0.0
利用援助・普及事業						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5
2022年度 特定事業 合計	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.5	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆5月から久美堂本町田店での予約本受渡しサービスを開始し、約6,500点の貸出がありました。この取組は文部科学省の「図書館・書店等連携実践事例集」に取り上げられました。◆利用者向上に向けた取組として、新たに館内回遊型のイベントを実施し夏休みに開催した「図書館でウォーリーをさがせ!」では延べ516人の参加があり、10月のオリジナルキャラクター誕生1周年イベント「つるまっちーと こつるまっちーからのメッセージをさがせ!」では延べ198人の参加がありました。◆地域との連携に力を入れて、大学生による絵本の読み聞かせやFC町田ゼルビア連携イベントなど52件実施しました。◆認知症サポーター養成講座の受講やDサミットへの参加、個人情報保護研修、接遇研修など管理運営業務が適切に行われるよう職員のスキルアップに取り組みました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用は2022年度と比べて横這いの中、主な成果である来館者数や貸出点数は良好であり、利用者満足度が約95.5%と高いことから、指定管理者制度導入の効果が発揮されています。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに引き続き取り組む必要があります。また、管理運営状況評価の検証のため、評価委員会部会の効果的な開催手法を検討する必要があります。
◆引き続き民間事業者ならではの図書館サービスの導入をすすめて、利用状況のさらなる向上に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。 ◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。 ◆2024年度が初めてとなる、評価委員会部会を開催し管理運営状況評価の検証を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2023年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	町田ゆかりの文学者の著作、原稿等の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講演会などを通して市民に発信し、文学に関する調査研究や知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくります。					取 他 り 自 組 治 み 体 等 の	◆町田市民文学館は、多摩26市で唯一の総合文学館として、文学・ことば・文字をテーマにした特色ある事業を実施しています。◆千代田区では区内の小中学生を対象に「ちよだジュニア文学賞」を実施し、97件の応募がありました。◆古河文学館では全国の小中学生を対象に詩や物語を募集する「1ページの絵本」を実施し6,381件の応募がありました。												
	◆文学資料の収集、保存及び展示に関すること ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関すること ◆講演会等の開催に関すること ◆文学に関する広報活動に関すること ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関すること ◆文学資料の寄贈及び寄託に関すること ◆文学館施設・設備の利用及び維持管理に関すること																		
所管事務	根拠法令等																		
						2021年度		2022年度		2023年度		施設の名称		町田市民文学館ことばらんど					
	利用料金収入 (単位:千円)					4,164		3,772		3,058		建設年月日		2006年6月1日					
	受益者負担比率					3.0%		2.6%		2.2%				2021年度		2022年度		2023年度	
												有形固定資産減価償却率		30.1%		31.4%		32.9%	
基本情報																			

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆幅広い層の方に文学館を利用してもらうために、積極的に地域や人とのつながりを作り出し、事業を展開していく必要があります。◆社会の変化を捉え、デジタル化やアウトリーチ等、市民のニーズに合った魅力的な事業を行う必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では、小学生から高校生まで幅広く応募してもらえるよう、効果的なPRを行う必要があります。◆若い世代に文学館を知ってもらえるよう、X(旧Twitter)やInstagramといったSNSでの情報発信を積極的に行う必要があります。◆開館後17年が経過し、空調設備の改修等の修繕をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆様々な団体などと連携し、展示室で見ただけではない魅力的な展覧会を実施します。◆学生と連携して作成する「(仮)町田の文学ガイド」を使用して出張授業を行います。◆より多くの応募が得られるように学校と連携しながら「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。		◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆Youtube、X(旧Twitter)、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。	
取組状況	○	◆「生誕100年 遠藤周作展」では94%の方から満足の評価を得ることが出来ました。また、民間団体や庁内他課等と連携したイベントを17件実施しました。◆市内の大学や専門学校の学生と作成した文学ガイド「町田ブンガク」を使用し、146人の中学生に出張授業を実施しました。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では学校と連携しながら出張授業を行うなどした結果、目標を上回る1,002件の応募がありました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	19,000	23,000	25,000	23,500	23,500	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	22,248	25,466	22,902		(2024年度)	
ショートショートコンクール応募件数	件	目標	300	1,000	1,000	1,050	1,250	2021年度から実施している「ことばらんどショートショートコンクール」の応募件数
		実績	939	887	1,002		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆展覧会観覧者数は目標値に届きませんでしたが、アンケートでは96%の観覧者から、展覧会により新たな関心を得たという回答をいただきました。◆ショートショートコンクールでは市内の専門学校と協働して和光大学ポリホール鶴川と中央図書館にて出張展示を実施し事業のPRをしたほか、出張授業を13回実施し目標値を上回る1,002件の応募が得られました。◆地域の賑わい創出のために、町内会や商店会と協働で「文学館まつり」や「文ッ字フリマ」を実施し、参加者は合わせて5,145人となりました。◆SNSを通じた情報発信を積極的に行い、X(旧Twitter)のフォロー数は2,600人になりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	75,558	76,172	74,847	△ 1,325	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	1,064	1,503	1,332	△ 171	保険料	0	0	0	0
物件費	34,761	38,825	38,177	△ 648	国庫支出金	0	0	1,959	1,959
うち委託料	17,718	18,778	18,728	△ 50	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,377	6,163	1,421	△ 4,742	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	4,164	3,772	3,058	△ 714
補助費等	2,982	2,487	2,617	130	その他	1,580	2,133	913	△ 1,220
減価償却費	13,423	13,423	14,374	951	行政収入 小計(a)	5,744	5,905	5,930	25
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 132,821	△ 139,782	△ 132,462	7,320
賞与・退職手当引当金繰入額	10,464	8,617	6,956	△ 1,661	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	138,565	145,687	138,392	△ 7,295	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 132,821	△ 139,782	△ 132,462	7,320
特別費用(g)	1,966	0	0	0	特別収入(f)	0	0	2,694	2,694
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 1,966	0	2,694	2,694	当期収支差額(e)+(h)	△ 134,787	△ 139,782	△ 129,768	10,014

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	使用料及手数料
決算額の主な内訳	光熱水費 10,121千円 作成委託料 5,392千円 施設等管理委託料 5,179千円 など	文学館施設使用料 1,804千円 展覧会観覧料 1,166千円 附属設備使用料 88千円
主な増減理由	電気使用量の減少により、光熱水費が1,201千円減少。	会議室利用件数の減少により、文学館施設使用料が189千円減少。展覧会観覧者数の減少により、展覧会観覧料が519千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	町田市民文学館 消防設備修繕 454千円 町田市民文学館 GH0-4冷媒漏洩修繕 417千円 町田市民文学館 2階大会議室照明制御不良修繕 211千円 など	受託販売収入 513千円 光熱水費使用料 129千円 複写機等使用料 104千円など
主な増減理由	2022年度に実施したエレベーターインバーターユニット等の高額な修繕案件がなくなったことにより、4,742千円減少。	展覧会における受託販売収入の減少等により、1,220千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
来館者1人あたりコスト	人	2023	52,155	2,653	307	人件費や維持補修費は減少しましたが、来館者数も減少したため、来館者1人あたりのコストは307円(13%)増加しました。
		2022	62,089	2,346	△ 428	
		2021	49,945	2,774	△ 1,534	
開館1日あたりコスト	日	2023	301	459,774	△ 27,473	人件費や維持補修費の減少により、開館1日あたりのコストは27,473円(6%)減少しました。
		2022	299	487,247	△ 29,787	
		2021	268	517,034	△ 23,437	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			6,025	6,956	931
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0	0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		0	0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産	691,481	689,090	△ 2,391	賞与引当金		6,025	6,956	931	
		土地	220,902	220,902	0	その他の流動負債		0	0	0	
		建物(取得価額)	685,351	697,333	11,982	固定負債		50,708	45,232	△ 5,476	
		建物減価償却累計額	△ 214,772	△ 229,145	△ 14,373	地方債		0	0	0	
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金		50,708	45,232	△ 5,476	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		56,733	52,188	△ 4,545	
		有形固定資産	0	0	0	純資産		634,748	636,902	2,154	
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
		その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計		634,748	636,902	2,154	
資産の部合計			691,481	689,090	△ 2,391	負債及び純資産の部合計			691,481	689,090	△ 2,391

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	町田市民文学館ことばらんど 697,333千円	特になし
主な増減理由	増減なし	空調設備の更新工事により、建物取得価額が11,982千円増加。 減価償却により、14,373千円減少。	

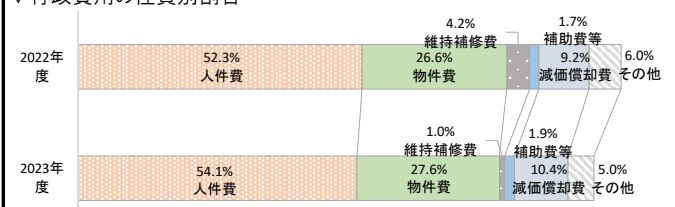
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	5,930	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	125,869	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 119,939	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 119,939
				一般財源充当調整額	119,939

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



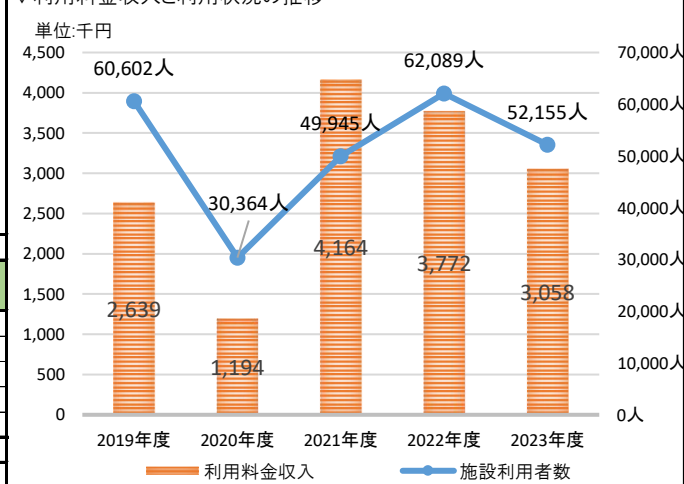
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
管理事務	2.7			1.1		3.8	3.7
管理事務(施設等貸出)						0.0	0.1
展示事業	2.1			1.7	1.3	5.1	5.1
学習事業	0.5			1.0	0.5	2.0	1.9
資料収集事業	0.5			3.0	0.8	4.3	4.1
2023年度 歳出目 合計	5.8	0.0	0.0	6.8	2.6	15.2	14.9
2022年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	6.0	2.9	14.9	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆秋の有料展「生誕100年 遠藤周作展」で長崎市から資料借用したため、運搬料が158千円から512千円(+354千円)に増加しました。通年でイベントを実施するなど盛り上げましたが、観覧者数は2022年度有料展の4,368人から3,401人(△967人)に減少しました。しかしアンケートでは観覧者の96%の方から、新たな興味や学習意欲の向上につながることができたという回答をいただくことができました。◆町田ゆかりの作家や町田が登場する作品を紹介する「町田ブンガク」を市内の学生と協働で作成しましたが、デジタル媒体として利用するため作成費がかかっていません。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆貴重資料保存庫の温度設定を見直し、電気使用量の削減を図りました。その結果、電気使用量は6%削減でき、光熱水費は11,322千円から10,121千円(△1,201千円)に減少しました。◆施設の老朽化が進んでおり、関係部署と連携しながら適切な修繕を実施しました。高額な事案がなかったため、維持補修費は6,163千円から1,421千円(△4,742千円)に減少しました。◆展覧会における関連商品の受託販売は、取扱い品目の減少などにより1,835千円から513千円(△1,322千円)に減少しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、柔軟な発想で事業を企画・展開する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では効果的なPRを行い、より多くの方に応募していただく必要があります。◆アウトリーチ事業を充実させ、市民が文学にふれあう機会を作り出す必要があります。◆市民が郷土愛や誇りを持てるよう、町田市の歴史や文化を学ぶ機会を充実させる必要があります。◆積極的に地域や人とのつながりを作り出し、幅広い層の方に文学館を利用してもらう必要があります。◆施設の老朽化が進んでいるため、適切な修繕を進める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆ことばや文字、文学の魅力を伝え、新たな学びや学びのきっかけとなる展覧会や教育普及事業を実施します。◆学生と協働で作成した文学ガイド「町田ブンガク」を使用して出張授業を行います。◆より多くの応募が得られるように学校と連携しながら「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。	◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。

